



# 漕 魂

22号

2000年

長崎大学医学部漕艇部



# 卷頭言

我等が六歳を契る

絢爛の其の宴は実に過ぎ易し

然れども見ずや先達の嚆矢、

古りて猶燦然として輝き

我等が矜持、久遠に逸せざるを

友達よ、然に明日の運命を嘆かんよりは、

此の虞美露ヶ丘に集いて、

去りては再び帰らざる

若き日の感激を謳わん。

## 漕魂の歌

作詞：今井雅之

作曲：岩谷伶

一、街を離れ ひたすらに

子々川の海へ 滑り出す

心地良い風 潮の薫り

キャッチロー キャッチロー

にじんだ汗が 流れだす

パドル行こう さあ行こう

二、水を切り 走る崎陽の

シュルルと放つ 快音は

朝もやの海に 似合っている

キャッチロー キャッチロー

心待つのは 安らぎの

オールメン イージーオール

オールメン イージーオール

三、スタート前の 緊張が

競り合う 気概と足蹴りに

ピッチを上げる コックスの声

キャッチロー キャッチロー

燃え尽きんと 漕ぎ続け

ああ喜びの トップゴール

## 琵琶湖周航の歌

作詞・作曲：小口太郎

我は海の子 さすらいの

旅にしあれば しみじみと

昇る狭霧や さざ波の

滋賀の都よ いざさらば

松が緑に 砂白き

雄松が里の 処女子は

赤い椿の 森陰に

はかない恋に 泣くとかや

波のまにまに 漂えば

赤い泊火 懐かしみ

行方定めぬ 波枕

今日は今津か 長浜か

瑠璃の花園 珊瑚の宮

古い伝えの 竹生島

仏の御手に 抱かれて

眠れ処女子 安らげ



平成 11 年 8 月 7 日・8 日 西医体 (浜寺)



西医体準決勝 対校艇 「盖世」



平成 11 年 8 月 26 ~ 29 日 全日本大学選手権



平成 12 年 3 月 卒業式

# 目次

## (寄稿)

急性アルコール中毒……………尾崎 正若……………1

## (活動報告)

平成十一年度の反省……………諸藤 陽一……………3  
 主将挨拶……………田辺 孝大……………6  
 インカレ遠征記……………崎元 晋……………7

## (特集)

OBの戯言其の666(独断と偏見に満ちた)  
 二十一世紀理想のボート部員像……………ウイ クアンロン……………10

## (試合結果)

平成十年度三校定期戦……………16  
 平成十一年度九州山口医科学生大会……………17  
 平成十一年度九州朝日レガッタ……………19  
 平成十一年度県民体育大会漕艇部門……………22  
 平成十一年度西日本医科学生大会……………24  
 COX記……………32

## (卒業にあたって)

ギブニズム終章……………福田 義文……………39  
 卒業しちゃった……………程野 茂樹……………40  
 卒業にあたって……………澁谷 正樹……………40  
 無題……………土井 晋平……………42  
 脳外……………松永 祥志……………42

## (部員雑感)

ノウズイは物を考えるとここにあらず……………及川 将弘……………43  
 雑感……………蓬萊 彰士……………43  
 P・A・O発令中……………森 創……………43  
 RRRROOAAARRR……………ウイ クアンロン……………44  
 雑感……………松本 周平……………45  
 雑感……………諸藤 陽一……………45  
 勧誘……………青山 英和……………46  
 雑感……………西條 知美……………46  
 贈り物……………高木 理博……………47  
 雑感……………田辺 孝大……………48  
 「わたしとみんなへ」……………渡辺 庸平……………48  
 家庭教師く博之先生と真奈美ちゃんく……………猪狩 啓介……………48  
 雑感、九十九……………崎元 晋……………52  
 虐げられているモノより……………田浦 康明……………52  
 九十九年度Bクルー整調記……………山口 仁平……………53  
 西医体に初出場して……………近藤 学……………55  
 「和佐野のこと」……………末下 雅也……………55



スカラー	豊田 啓介	56
雑感	山道 忍	56
僕の尊敬する「あなた」	吉武 記一	57
最近思うこと	和佐野 喜也	58
雑感	高田 潤	58

(その他)

平成十一年度長崎大学医学部漕艇部部費決算書	59
平成十一年度長崎大学医学部漕艇部OB会収支報告	60
長崎大学医学部漕艇部OB会会則	62
長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿	63
長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿	64
長崎大学医学部漕艇部役員名簿	65
長崎大学医学部漕艇部OB会一般会員名簿	66
長崎大学医学部漕艇部一般部員名簿	71
編集後記	72



# 寄稿

## 急性アルコール中毒

尾崎 正若

ここにあってこの題を取り上げたのは、最近熊本大学医学部のポート部で新入生歓迎コンパの際飲酒によつて一人の犠牲者を出したことによる。私の専攻が薬理の故もある。

願わくは、このような不祥事は本学医学部のポート部のみならず、いかなるところでも再び起こつて欲しくない。

まず、エチルアルコールの作用の概要に触れることにする。お酒を飲んだときの反応は、基本的にはエーテルなどの全身麻酔作用に似ているが、発揚期がより明瞭で長いのが特徴である。興奮したように見える発揚期は高位の神経機能、つまり後天的に得られた教養、自制心などが麻痺し、抑制される結果、活発、乱暴、無遠慮な行動となる。多弁になるが、意外に判断力、記憶力は低下している。なお下垂体の抗利尿ホルモン分泌を抑え、利尿作用がある。

一般に薬物は小腸から吸収されるが、アルコールは胃壁からも吸収され、小腸からの吸収も速やかである。吸収されたアルコールが、血液一〇〇ml中、一〇mgからせいぜい五〇mgまではほろ酔いと

いえるが、個人差がある。

ちなみに飲酒運転の限界は血液一〇〇ml中、五〇mg。また呼気風船一l中、〇、二五mgで判定するよしである。さらに血中三〇〇mgで泥酔、四〇〇mgで全身麻酔、ついで延髄の呼吸、血管運動中枢の麻痺に及ぶと死亡の危険が迫る。諸反応が鈍り、しばしば起こる吐き気に対して対応できずに誤飲し、気道をふさがれて窒息したり、温感の鈍麻により冬の寒い外界で昏睡のまま凍死するケースがしばしば報告されている。

エチルアルコールの作用に対して選択的拮抗作用を示す薬物はカフェインで、中枢興奮、強心、利尿作用がある。緑茶、コーヒーに含まれているので、吐き気のない状態では、カフェインも胃から吸収されるので、有効な酔いさましである。泥酔状態の治療に安息香酸ソーダカフェイン(アンナカ)はリンゲルの点滴中に欠かせない。

体内では比較的ゆっくり主として肝臓で酵素により分解され、アセトアルデヒドを経て究極的には水と炭酸ガスになるが、日本人は一般に欧米人に比しこの酵素活性が弱いとされる。生活習慣病の予防に飲み助に一週に一日か二日、肝臓を休める休肝日を勧め、肝機能障害を起こし、GOT、GPT値が上昇して、肝の脂肪変性や肝硬変の予防を呼びかけている所以である。

さて、ほとんどの学生諸君は二十歳を越え、成人になっている。他人から云われるまでもなく、自分の行動には自分で責任を持ち、自律すべきだし、いくらすすめられても、これ以上の酒は無理と

知つての上は、たとえ一気飲みを強いられても断々乎として、これを拒否する勇氣と自覚を持つて欲しい。またそれを主張して、いる本人の意思は尊重されなければいけない。まして諸君は将来人の命を尊重しヒューマニズムに徹する医師になるのだから。

「酒は楽しく飲むべかりけり」への警告  
古人は良くぞ言つたものである。

# 醫學博士 中野 實

醫學博士

# 活動報告

## 平成十一年度の反省

前主将 諸藤 陽一

、99年度の対校クルーは西医体準決勝敗退（順位決定戦3位）という自分としても非常に不本意な結果に終わってしまった。しかし、Bクルーの準決勝進出（順位決定戦6位）、Cクルーのナックル部門決勝5位など将来的に明るい材料も残った。これらの結果をふまえ、99年度シーズンを反省しながらふりかえってみたい。

まず、例年と大きく違った点は、昨シーズンは不祥事のため西医体に出場していないという事だった。そのため、部員の練習へのモチベーションの低下が心配された。前年の試合で負けた悔しさ、勝った喜びがあるからこそ次のシーズンに向けての冬の単調できついトレーニングに耐えられるものだが、それを経験してない部員、特に1年生のやる気をどのように引き出し、部全体を盛り上げていくかが今年の大きな課題であった。その他、部の層が薄いこと、故障者が多いことなどここ数年言われ続けている問題も残されていた。

### オフシーズン

9月から上級生下級生混合の均等クルーを作り3校戦に望むことにし、また、例年1〜2回行っている2000mエルゴトライアルを11月、12月、2月の3回行い、その結果をもとにシーズンのA、Bクルーを編成することにした。これは部内競争をあおる意味もあったが、実際は9月の時点で体力的、精神的にAクルーにのれる部員がいなかったためやむなくとった措置でもあった。均等クルーではあったが、各クルーとも真面目に練習を行った成果が出て3校戦では比較的良好な結果を残すことができた。

次に陸上トレーニングであるが、オフシーズンを大きく2つに分けて行った。

1. 9月〜3校戦：乗艇練習によるテクニク向上、最大筋力の

向上

週4回の乗艇、週3回の筋トレ、週1回のエルゴ（ロング）

2. 3校戦〜2月：筋持久力、心肺持久力の向上

乗艇、サーキットトレーニング、ラン、エルゴ（ロング）、エルゴ（ショート）をそれぞれ週1回、週1〜2回の筋トレ

冬場の陸トレにおいても朝練を中心に行い、夕方の空いた時間に各自筋トレ等の自主トレーニングを行うようにした。Aクルーは週9〜10回、他のクルーは週7〜8回と決して楽な練習メニューではなかったが、下級生はよくついてきてくれたと思う。特に1年生のやる気、身体能力の高さには目を見張るものがあり、彼らが部の中心になる時が今から楽しみである。また、1年生に刺激されたせ

いかに上級生も例年と比べ熱心に練習に取り組んでおり、2000mエルゴトライアルの結果にもその成果が現れていた。測定に納得がいらず再度チャレンジするガッツのある奴や定期試験の直前まで調整して好記録を残す者が出てくるなど昨年まではなかったことである。

ただ、Aクルー選抜における競争が全くなかった点は問題として残った。これは体力面だけでなく精神面の問題も大きいと思うが、今後も競争の中で選抜されてAクルーに乗るのではなく、頼まれてAクルーに乗るといような状況が続けば勝利から遠ざかっていくことは目に見えている。対校クルーは責任が重く大変ではあるが、西医体決勝レースでの緊張感などAクルーでないとなかなか味わえない様なことも数多くあるので、部内で競い合ってAクルーに乗ってもらいたい。また、Aクルーの者も後輩が憧れるような魅力あるクルーを作るよう努力して欲しい。

また、自分自身の経験からAクルーを3月になってからを組むのと、秋からを組むのではシーズンへの影響が少なからずあることとオフシーズンの期間でもAクルーがいると部全体が締まるということを考え、3校戦後にAクルーを組み練習を開始した。具体的に、他の部員より週2〜3回陸トレを多くやり、昨年から試みられた浦上川での乗艇練習も行った。浦上川での練習の利点は、近いため平日の朝練も可能なこと、コンディションがよいこと（流れはそんなにない）、ほぼ直線で長い距離（1000〜2000m）をとれること、目立つこと（一般の人達にボート競技を知ってもらえる）などが挙げられる。逆に欠点としては、干潮時は出艇不可能な

点と川、特に河口の潮の流れをよく把握していないと思わぬ事故を起こす危険があるという点くらいだろうか。

#### オフシーズンの反省

皆それぞれよく頑張っていたと思うが、H.W.の自主トレなどは各部員でやる回数の際のばらつきが大きく、やっている者も最大筋力の向上を目標としているのに軽い負荷で行っていたりと効果は上がっていないかったのではないか。実際、オフシーズンの間に体が大きくなった部員はAクルーを含めてもほとんどおらず、体の細い部員が依然多い状態は改善できなかった。

#### シーズン

オフシーズンの間の2000mエルゴトライアルと30分、40分のエルゴ記録をもとにクルーを編成した。ここで、昨年までAクルーで漕いでいた及川さんがBクルーに乗ってくれ、さらに森さん、蓬萊さんにもシーズンを通して練習、試合に参加していただいた。これは今まで言われ続けてきた2番艇以下の力不足を解消するには又とない機会だと思われた。実際、Bクルーは及川さんの厳しい指導にしたの学年もよくついていき、試合ごとに力をつけ、西医体では好成績を残してくれた。

Aクルーの試合等についてはコックスにまかせることにして自分なりに気付いた点をいくつか述べてみる。

自分がAクルーに乗っていた過去2年間はテクニク云々と言う前に体力不足の感が否めなかったが、今年のクルーは体力的には他有力大学と遜色ない位に成長していた。そのため、ある程度自信をもつてシーズンにはいることができた。しかし、比較的若いクルーであり、西医体の経験がないこと、技術的には未熟であること、シーズン途中での故障の可能性があることなどが不安材料としてあつた。

シーズン中の練習内容は例年に従い行ったが、全体の印象としては、陸トレで養ったパワーを乗艇において水中へうまく伝えることがシーズンを通して最後までできなかった気がする。特に西医体前は疲れがたまってきたせいもあつてか全く艇速が伸びなかった。これは乗艇中、「キャッチでしつかり水をつかんで、水中を強く蹴る」という一番基本的なことがシーズン前半に徹底できていなかったせいだと思う。これは全て自分の甘さが招いた結果である。練習の量はこなしたが、内容、質という点では問題があつた。きつい練習をしていることに満足してしまい、試合に勝つという真の目的を忘れていた面があつた。

また、若いクルーであつたので西医体までは一切パドルを行わないなど思い切った練習内容の改革を試してみてもよかつたかもしれない。このことは氏家コーチには以前からいわれているのだが、目先の試合にこだわって、細かい調整を繰り返しながらシーズンを進めていくよりも、西医体に目標を絞ってじっくり漕ぎこんだ方が体力面、技術面ともに向上が望めると思う。実際は九朝、県漕などのレースが気になるだろうが、そこをグッと我慢して基礎の練習を

じっくりやつたほうが最終的に結果が残せるだろう。

前年の不祥事でそなわれた名誉を挽回すべく練習に取り組んだが、残念ながら西医体で決勝に進むことができなかった。Aクルーに西医体の決勝を経験させてやるのが出来なかつたことが残念でならない。今回のメンバー4人は来年この屈辱を晴らしてくれると思う。幸い、B、Cクルーが好成績を残し、来年に期待がもてる。来シーズンは田辺主将を中心に部を盛り上げ、部員それぞれが目標を達成すべく努力して行ってほしい。

## 主将挨拶

4年 田辺 孝大

昨年Aクルーは準決勝敗退という結果に終わってしまいました。B、Cクルーがよい結果を残してくれていただけにとても申し訳なく情けない気持ちに成りました。

ここ数年、我々長大ボート部は国体出場も西医体でのメダル獲得も果たしていません。

その原因はいろいろ考えられますが、

- ・ 他大学（勝てる大学）に比べて体が小さい。（特に体重）
- ・ 進んで上のクルーに乘ろうとする意識、他の部員に負けたくないという競争意識が足りない。
- ・ けが人が多く十分な練習がこなせない。

といったことがもつとも大きいかと思われれます。

これらは、ここ数年言われ続けていることですが、幹部学年を中心になんとか工夫していこうと考えています。

また昨年は入部してくれた一年生が3人しかおらず、今春の勧誘活動には例年以上の気持ちで臨まなければならないと思っています。

自分自身最後のチャンスでもある今年、ぜひ納得のいく結果を残し、強く楽しい長大ボート部の伝統を守っていこうと思います。

# インカレ遠征記

3年 崎元 晋

長大Aクルーは例年1シーズンに大体5つの試合をこなしている。その中には、狭い世界から外に目を向け全国レベルの大会に参加することで、ふだん味わえない刺激や優れたクルーの強さ、巧さを吸収しようとするものがある。ここ2年は、五月に琵琶湖で行われる朝日レガッタがそれであったのだが、今シーズンは、小このところ参加していない全日本大学選手権大会(インカレ)に行かせて頂けることになった。と言うのも、社会人がいるとはいえ関西地方中心の選手層が幅をきかず朝日レガッタに対して、インカレはやはり全国、特に中央の優れたクルーが多数参加してくることもあり、西医体で頂点を狙う長大ボート部としてはこの学生日本一の大会への参加を絶やしてはならないということである。

インカレは8月26、29日に戸田オリンピックコースで行われる。経験の少ない自分らが遠い長崎の田舎から出場するにあたり、氏家コーチにコーチング以外でも大変お世話になったにはいうまでもない。戸田には三菱の艇庫(コースに隣接。一階が艇庫で上は快適な宿泊施設)があり、氏家さんのおかげで一番大事な艇と宿の心配を何の問題もなく解決できたのである。

出発は8月23日であった。体育館に集合してみると、部員のほとんどが見送りに来ており、万歳で送りだしてくれた。来てくれることを知らなかっただけに嬉しさと共にやる気が込み上げてくる。

東京へは長崎空港→羽田空港→浜松町→池袋→戸田公園→三菱艇庫、という順番だった。

戸田について、なによりもまず最初にまずその光景に圧倒されてしまう。戸田はいわゆるボートの聖地といわれている。あまり広いとは言えないが遠く一直線に伸びたコース中をあらゆる種類の艇が埋め尽くしているのだ。そしてその艇に乗ってる漕手はいかにもボートに全てを賭けてます、といった感じの屈強な猛者ばかり。この環境の中で毎日練習したらモチベーションの低下などありそうにも無い。人、艇、雰囲気、設備、ここにあるものは今まで自分が見てきたものとは次元が違っていた。

翌日から練習を開始する。朝5時起床で何げに外を見てみると、他のクルーはなんとももう出廷していた。長大ボート部の朝練5時集合に関して、少なくとも普通で無いと思っていた自分が恥ずかしくなる。ここには、僕ら以上に勝ちたいと思っているやつらがいくらかでもいるのだ。負けるわけにはいかない。

さて、三菱より借りたフィリップに乗っていきコースへ出ると、もうそこら中に艇がもうウジャウジャ。メニューの合間にコースで休憩していると、後ろからすぐ他の艇がやってくる。止まっていられないのだ。依然、森さんが部誌に朝日レガッタのコース取りの厳しさに書いて書いていたが、多分それよりハードな内容だったと思う。コックスがこれを経験すると相当な度胸と判断力が身につくのではないか。



練習の途中、3番高木さんが股関節を痛めたために上がることに  
なった。その後、近くの病院にいったが深刻そう。急遽、長崎にい  
る及川さんに補漕を頼むことになる。次の日の夕方、及川さんが到  
着し、わずかばかりの練習で次の26日の予選に望むことになる。

レースは8時10分スタート。4十のレースの時間帯が以上に早  
い。4×野8+に比べて隅においやられてる感じがする。

2レーン：金沢大学	7：25：49	2位
3レーン：徳島大学	7：45：98	4位
4レーン：長崎大学医学部	8：02：28	5位
5レーン：日本大学	7：17：70	1位
6レーン：東京都立大学	7：43：26	3位

の5の2あがりのレース。特に5レーンの日本大学は去年の4十の  
優勝校だ。スタートしてまず出たのは、なんとウチと日大。ところ  
がコンスタントでどんどん抜かれてゆく。そして500mの時点で  
4位。結局、最下位でゴールした。はつきり言つてまるでいいとこ  
なし。なんとも情けない漕ぎだった。

次の日は敗復

2レーン：長崎大学医学部	7：29：72	4位
3レーン：広島工業大学	7：16：96	3位
4レーン：日本体育大学	6：56：28	1位
5レーン：小樽商科大学	7：12：55	2位

の4の1あがりのレース。スタートはやはりウチが出る。だが悲  
しいかな、またもコンスタントで追い付かれ、追い抜かれてしま  
う。漕ぎは昨日よりましになっていたが、実力の差は少なからずと  
もあった。

他のクルーはどうやらスタート、ローイングをほとんど入れてな  
いといつていい。ウチのように1000mと同じようにスタートを  
入れるのではなく、あくまでコンスタントを重視するのだ。クルー  
が変わったとはいえ、ウチは2000mの戦い方を分かっていたいな  
かったし、研究も練習も足りなかった。やはりインカレで本気で勝  
ちを狙うなら、クルーの実力とインカレに向けての相当な調整が必  
要だろう。

あと、もちろんであるが、パワーの差は歴然としていた。自分の  
事を棚に上げて言うが、ウチは西医体レベルでも体格は他の大学よ  
りも明らかに劣っている。勝つために日頃のトレーニングの取り組  
みだけでなく、食事などの事から全ての接し方、考え方を根本から  
変えてゆくべきだろう。

最初の方でも言ったが、インカレにいくと本当にたくさんの事を  
勉強できる。是非行つてほしいし、機会がなくなるとも関朝などに積極  
的に参加すべきだ。行つてできるだけだけの事を学んできてほしい。

最後に付け加えないといけないことがある。もしまた氏家さんの  
紹介で三菱艇庫を借りるような時に。その管理人の遠藤さんはす  
ごくいい人である。僕らはいろいろ親切にしてもらい、大変お世話

になった。だが他の大学はそうもいかなかったようで、ポロクソに怒られてしまい、どうやら関係はうまくいってなかったようである。何を気を付けるかというところ、長崎からのお土産を忘れないということと、門限は何が起ころうとも絶対に破ってはならないということである。これだけでインカレの後味は全く変わるだろう。

(青山さん、仁平、応援ありがとうございます。兄貴もごちそうさまでした)

## 詩集

## 特集

OBの戯言其の666

（独断と偏見に満ちた）二十一世紀理想のポート部像

まえがき：

By ウイ クアンロン（5年）

「初めに言葉ありき」とは旧約聖書創世紀に書かれている有名な言葉。言語と言うものは自分の世界と、その他の世界を結ぶ手段。それによって人間は主観的存在から客観的存在へと昇華する云々。まあ、平つたく言ってしまうと「口の上手い奴は出世する、その逆もまた然り。」とでも言っておきましょう。

そこで、何故だか知らないが口の下手な僕が「特集」なるものがかかされることになってしまった。そこで僕の持てる限りの全英知を尽くして（注：正確には「無い知恵を絞って」、構想三日、製作期間一週間（注：思いつきで書いた、とも言う）、製作費300円（注：生協前自販機のコーヒー代）をかけて製作した力作（注：正確には「紙面つぶし」）。栄えあるポート部の輝かしい未来の礎となることを願い、ポート部に携わる人間全てに微力なる我が言霊が力を与えんことを。（注：本音は「どうせ適当に書いたモンだから、簡単に読み流してくれても結構です」）。

それでは、始めましょう：

「そして1878年、薩摩藩士達は物々しい鎧兜に身を包み、一振りて体を切り裂くことができ、あるいはひらひらと舞う薄い絹を切り刻むことのできる刀を振りかざしながら、平然として何の反応も示さない官軍の前ではやり立ち、その力を誇示した。今や官軍の制服に身を包んだ農民たちはよく訓練されており、マスケット銃で武装していた。そして、硝煙が晴れたとき、武士道の栄華は死に絶えたのである。」

D・S・ランデス著、「強国論と富と覇権の世界史」より

これは100年前の西南戦争を記した文章の一つ。古い価値観や過去の栄光、それに新しい価値観について行けなかった人たちが時代の流れとともに淘汰されてゆく様がありありと書かれている。2000年現在、マスコミや世間が「インターネット革命だ」「グローバル経済革命だ」とか言って騒ぎ立ててるが、よく考えたら上記に書いたように、100年前にもそれ以上の社会を根幹から揺るがす革命が起こっていたことがわかる。

それ以前の歴史を100年単位で見ると面白いことがわかる。たとえば1492年コロンブスによるアメリカ大陸発見、それに続く16世紀大航海時代の幕開け。1768年ジェームズ・ワットによる蒸気機関の発明、1776年アメリカ独立、1789年のフランス革命。それに伴う19世紀初頭の産業革命、及び民主主義の台

頭。

20世紀前半、1914年第一次世界大戦開戦。1917年ロシア革命、そして共産主義の台頭、それに続く世界を二分したイデオロギー対立。「戦争の世紀」と呼ばれた今世紀は、その世紀初頭に端を発していたことが分かる。そして20世紀末、1989年ベルリンの壁崩壊、1991年ソ連解体、それに伴う共産主義の崩壊。そして現在、資本主義の躍進によるグローバル経済、市場経済の台頭、コンピュータの急激な普及による政治、社会、経済などあらゆる分野のライフスタイルの変化が起ころうとしているのがわかる。

これ以上歴史や経済の話ばかりしていると本題からそれてしまふばかりか、せつかく書いた特集を飛ばし読みされてしまいそうなので、本題の方へ戻ります。こうした「歴史の必然」におけるライフスタイルの変化は保守的な日本社会にも確実に浸透しているように見える。グローバリズムと高度な情報化により日本は政治、経済などあらゆる分野での国際的な相対化を求められ、それについていけなかったものがどんどん脱落してゆく、それが今の日本であると思ふ。

さつきから堅苦しい話ばかりだったので、もつと楽な話題に戻ります。「世界的な競争」といえばスポーツがそのいい例。昔は「日本一」こそが最高の価値観だったが、今や「世界一」にその場を奪われつつある。衛生放送とインターネットの普及で世界最高のプレーイがお茶の間で見れるようになってから「日本一」は実は「世界

ン十位」だと分かるようになってきたというわけだ。

その良い例がプロ野球、「日本には「ヤキウウ」とか言うベースボールに似たスポーツがある」と元ヤクルトの某外国人助っ人に言わせしめ、「根性」「気合い」「血と汗の青春」といった言葉が他のどのスポーツよりよく似合うこの日本的なスポーツも、1995年に野茂英雄がメジャーリーグで大成して以来、ファンの意識、選手の意識は確実に変わりつつある。これも世紀末に起こった出来事として、ある意味「歴史の必然」なのだろう。それ以降は説明の必要はないと思うが、ファン達は目が肥えてきて、選手達はさらに高いモチベーションや目標を持つようになった。

だが残念なことに、その変化の波に気付いていないか、あるいは知って知らぬ振りをしている人たちがいる。球団である。中にはオリックスのように自力で盛り上げようと言う所もあるが、大抵は巨人におんぶにだっこ。セリーグが提案する140試合制もパリーグが提案する交流試合も巨人戦で稼ごうという意図丸見え。第一、世界のどのプロスポーツを見ても、監督の背番号が見えたの見えないので大騒ぎしたなんて話は聞いたことがない。大学の価値が環境や施設で決まるのではなく業績で決まるように、監督の価値は背番号でなく試合の勝敗できめる、これ世界の常識。

おっと、また話が飛んでしまった。そうそう、スポーツの話だ。ポートはアマチュアスポーツなんだからプロスポーツの話をしても参考になるはずがない。アマチュアスポーツの祭典と言えばオリンピック、しかし最近の日本勢は元気が無い、1984年のロス五輪

のときは金メダル10個だったのが1988年ソウルでは4個、バルセロナでは6個、アトランタでは2個とますます元気が無い。まさか今年のシドニーは「取れませんでした」だったりして、もちろんその後、悔し涙を感動ストーリーに仕立て上げて、帰ってくる時は「負けたけど良く頑張った、お帰りなさい」。

すると次ぎに沸いてくる疑問は「なぜ日本の選手は勝てないのだろうか?」「外国の選手と日本の選手、何が違うのだろうか」の2つ。多くの評論家は技術や環境などをあげるが、僕個人の考えでは違いはつぎの3つの点にあると思う。「余裕」と「意志」と「文化」、この3つだと思う。

まずは「余裕」、海外のオリンピック選手は大抵その競技を“副業”としてやっている。中にはアメリカの陸上選手みたいにプロ化しているものもあるが、大抵が趣味の延長としてスポーツをやっている。ボートで言えば「栄光と狂気」にも出てきたジョン・ビグロウやジョー・ブラスカランも本業は医者。アトランタ五輪に出たドイツのトーマス・ランゲも本業は医者。よく海外の選手のインタビューなんかを聞くと「金メダルも取れたので、大学に戻ります」とか「引退して、弁護士になるための勉強をします」とか平気で言う。その他にも、いかにも大学生らしいボキャブラリーの高さをテレビや雑誌などで遺憾なく発揮している。

それとは対照的に、日本の選手はほとんどがスポーツ一筋。中学、孝行、大学、就職も全てスポーツで通ってるせいかわキャブラリーが貧しい、テレビや雑誌の取材などでもスポーツの事以外は何

も喋れないのが多いし、インタビューも「楽しんできます」とか「自分のために闘います」とか「私が勝てたのは監督のおかげです」とか「私がここまで来れたのは皆さんの暖かい声援のおかげです」とか言った決まりきった言葉しか出てこない。就職してると言っても受付嬢とかホテルのフロントとか言った簡単な仕事ばかりらしい。まあ、スポーツしかしてないんだから当然か。

海外の選手にとって、スポーツはあくまで趣味の延長、自分の一部に過ぎない。だから彼等は何の気負いも無いし、「負けてスポーツを失っても、本業に戻ればいいだけ」と簡単に割り切れる。だから彼等には迷いが無いばかりか、余裕すら感じられる。その反対に日本のスポーツ選手にとってスポーツは自分の全て。スポーツを失えば全てを失う、だから迷いや気負いを感じる。中にはそれを乗り越える人もいるが、負けた人は大抵このプレッシャーに潰されている。彼等／彼女等からは「余裕」が感じられない。

次に「意志」、2年前のワールドカップで元日本代表のラモスの言葉に興味深い一節があった、「日本の選手達がグラウンド場でガムを噛んだりニヤニヤしてたりしたのに対し、ジャマイカの選手は歯すら見せなかった」と。至極正論だと思う。

日本では愛国心と言うと第二次世界大戦時のイメージが強く、それに対する拒否反応が強いが、僕の知る限り、愛国心と言うものは恐いものでもさけるべきものでもないと思う。世界中どここの国でも大事な行事には国旗を掲げ国歌を歌う。よくニュースとかで流れる外国の反政府デモでも多くの人が国旗を掲げて、国家を合唱する

シーンが見られる。愛国心と国粹主義は違う。

どんな人でも自分の生まれた土地、育った文化土壤、同じ地に育った人々に愛着を抱くはず。外国で暮らしてみると特にこう感じるはずだ。"ここもいいけど、やっぱり自分の国が一番過ぎしやすい"と、これが愛国心と言うものだ、難しいものでも恐いものでも何でもない。"愛国心などいらない"とか言う人間はイデオロギー狂か文化レベルが低いか、あるいは両方だ。

そう考えれば、自分の国が勝つと嬉しいし、選手なら自分の国を勝たせたいと思う気持ちも自然と湧き出てくるはず。「自分のために闘います」とか言う人間は、所詮自分の地位、名誉のために闘つてに過ぎない。プロスポーツならそれでもいいかも知れないが、オリンピックやワールドカップではそうはいかない。国旗の描かれたユニフォームを着たその時から、選手は"私人"ではなく、"公人"だ。多くの人の笑顔のために闘う人間と自分一人のためだけに闘う人間、どっちの"意志"が強いと言うまでもないだろう。

最後に「文化」、はつきり言わせてもらおう、スポーツは文化である、決して遊びの延長線でも、ましてや企業の広告塔でもない。文化的に歴史の浅いアメリカではまだその傾向が強いが、文化の歴史の深いヨーロッパ諸国ではスポーツは文化の一つであると言う認識が定着している。ボートが貴族のスポーツであった事はボート部員なら全員知つてゐることだが、ヨーロッパでは貴族がスポーツを嗜むことが絵画や音楽を鑑賞することと同等とされている。だから彼らはスポーツ選手に対し高い尊敬の念を抱くし、スポーツのための

出費を惜しまない。"何故スポーツは文化なのか"という質問にもお答えしたいところだが、また話が大幅にそれるので省略する。

残念な事に、日本ではスポーツが文化であると言う認識はまだ低い、文化の発展の場であるべし大学(特に私立校)ですらスポーツを商売道具か学生獲得の手段としか考えてないようだ。彼らの語り口からは知性を感じられないし、ひどいものになると、勉強してませんから"などと平気で言う。教育に対する冒涇もいいところだ、これでは彼らを入学させるために落とされた他の真面目な受験生が報われない。文化とは本来人間を豊かにするためにあるものだ、だが彼らの場合スポーツに凝り固まって逆に人間性が貧しくなっている。本末転倒とはまさにこの事だ。

外国だけに限らず全ての国にあてはまる事だが、優れたスポーツ選手は、人間としても優れている事がほとんどである。彼らはしばしば試合場の外でも素晴らしい業績を挙げ、彼らの残した言葉は多くの人を感動させうる。なぜなら、彼ら/彼女等は優れた文化人だからだ。音楽家や料理人や画家が極限まで高めた五感で同じものを求めるように。スポーツ選手は己の肉体を極限まで高め、"神"を求める。人々はそれら芸術家達のその気高い姿に酔い、感動し、求めるのである。

これで今回の特集は結論に近付いてきたと思う。21世紀を担うボート部員像、それは"優れた文化人"に他ならない。確かに歴史とともに人間のあり方は常時変化し続けたし、これからも変化し続ける事だろう。ただその中で未来永劫変わらないものが一つだけあ

る、それは人間が人間たる所以、「前進への情熱」である。これまでに歴史上で起こってきた変化は、全て人間が「より良いもの、より優れたもの」を求めて起こしたものだ。

確かにそれらの変化は常に正しい方向に向かつてるとは限らない。ときにはそれが大いなる悲劇を招く事がある。だが「前進への情熱」がない限り世界は動かない。カルタゴやローマ帝国は栄華を極めながらも、「情熱」を失ったため滅びた。キリスト教徒やユダヤ民族は度重なる迫害を受け、絶滅の危機に瀕しながらも決して滅ぶ事無く現在の繁栄を勝ち取った。彼らは復興への「情熱」を失わなかったゆえ生き残れたのだ。「前進への情熱」を持つものだけが生き残る、これが「歴史の必然」の眞の正体だ。

新聞や本などでは今日日本がおかれている状況を「第二の終戦」と呼ぶ人がいる。確かに物理的（あるいは精神的）に敗北したという点では同じだろう、でも決定的に違う点が一つだけある。人々の心に情熱と希望があつたかどうかだ。これは冒頭でも述べた幕末期にも言える事だが、あの頃の日本には何も無かつた。金も、力も、学問も、全てが無かつた。しかし人々の心には未来への希望、それを行動に移すための情熱があつた。それが後に太平洋に浮かぶこのちっぽけな島を世界有数の大国に変えた事はおそらく知らぬ人はいないだろう。それに比べ、今の日本からは「希望」も「情熱」もほとんど感じられない。人々はその余りある金をしまひ込み、ただひたすら頭を低くして嵐が通り過ぎるのをまつばかり。左がかったマスコミヤ文化人達はこれに便乗して、創造無き破壊と絵に書いた餅に過ぎない千年王国の建設を叫ぶばかり。権力者達は自分の利権を

手放したく無いばかりにひたすら現状維持に汲々としてるばかり。

最近の医学生にも同様の事が言える。最近、体育会系を含め、部活に入らない人が年々増加している。彼等のほとんどは壮志を抱いてるわけでも無く、また一生懸命勉強したいわけでもない。ただバイトして、その金で遊んで、金が無くなったらまたバイト、その繰り返し。「社会勉強だ」とか「大学時代しか遊ぶ時間が無い」と言うのが彼等の言い分だが、大いに異議があるので反論させてもらうとしよう。社会勉強ならバイトよりもボランティアをするか部活の中で色々な体験をする方がもっと有意義だ、それと時間はやつてくるのを待つものではなく自分で作るものだ。所詮は目的意識を持たぬ者が自分の情けなさを言論で無理矢理正当化してるに過ぎない。

自分は医学部で学ぶようになって現在で6年目だが、学べば学ぶほど人体の不思議さには驚かされる。人間の体というもののは外見だけから見ると加齢による緩やかな変化以外何も起こってないように見えるが、その体内では血液やガスやホルモンや酵素が同種の組織または異種の組織において細胞単位で絶えまなく移動しており、人体組織は一部の例外を除いて周期的に新陳代謝により常に入れ代わっている。そして物流や新陳代謝の途絶えた組織は壊死を起し脱落するか、悪い時には癌細胞となって他の健康な組織を浸蝕する。医学部に入学（卒業）するだけの頭脳を持った賢明な方々ならこれが何に酷似しているか説明の必要はないと思う。世界とは、人間そのものなのだ。

これでまた結論へ一歩近付いたと思う。そう、この世には桃源郷も、エデンの園も、千年王国もありはしない。我々に必要なのは常に”より良きもの“を目指す努力、良きものは残し悪しきものは排除し、四六時間中常に気を抜かない事。ボート部員ならこんなこと説明するまでもないだろう、なぜならこれは子々川にて毎朝のようにやっている事なのだから。

そろそろ読む方も僕も疲れてきたと思うので結論を述べよう。これからの21世紀を担うボート部員に必要なものは二つ、一つめは「ボートは人生の縮図である」という認識、二つめは素晴らしき人生を生き抜くための「情熱」を絶やさぬことだ。

これは全ての部員が経験することだが、入部当時我々は何も知らぬまま大海原に一人放り出される。我々はそこでこれから苦楽を共にし、お互いの欠点を補いあうクルー仲間と出会い、力を合わせて艇を進める。やがてその中でレースという目的を見出し、情熱を糧とし持ちうる最大限の力でゴールを目指し漕ぐ、トップゴールの先にいる”神“を目指して。

「賢明な子供ならば、”君は誰よりもいい子になりたいか？”と聞かれても横目で流して嘲笑するだけだが、”君は誰よりも強くなりたいか？”と聞かれると両目を大きく見開いてこちらを見るものだ」

ニーチェ「力への意志」より



# 試合結果

## 平成十年年度三校定期戦

Aクルー (鴻図)

C森 (4年)

S高木 (3年)

3豊田 (1年)

2山口 (2年)

B田辺 (3年)

Cクルー (崎陽)

C蓬萊 (3年)

S渡辺 (3年)

3吉武 (2年)

2和佐野 (1年)

B及川 (4年)

Bクルー (雄図)

C田浦 (2年)

S諸藤 (4年)

3末下 (1年)

2山道 (1年)

B猪狩 (2年)

Dクルー (無双)

C西條 (3年)

S崎元 (2年)

3青山 (3年)

2近藤 (1年)

Bウイ (4年)

### オープンシエルフオア

予選A (4・2)

I 宮崎医大C

II 長崎大B

III 熊本大D

4 : 0 2 : 4 6

3 : 5 7 : 0 2

4 : 0 3 : 6 2

2位

1位

3位

IV 長崎大C

4 : 0 7 : 9 1

4位

予選B (4・2)

I 熊本大C

II 宮崎医大B

III 熊本大B

IV 長崎大D

3 : 4 2 : 4 6

3 : 4 2 : 8 9

3 : 4 5 : 1 8

3 : 5 9 : 9 0

1位

2位

3位

4位

決勝

I 長崎大B

II 熊本大C

III 宮崎医大B

IV 宮崎医大C

3 : 2 4 : 7 5

3 : 1 7 : 4 4

3 : 1 5 : 6 5

3 : 3 1 : 6 5

3位

2位

優勝

4位

### 対校シエルフオア

決勝

I 長崎大A

II 熊本大A

III 宮崎医大A

3 : 4 8 : 9 1

3 : 2 1 : 9 9

3 : 5 2 : 3 8

2位

優勝

3位

# 平成十一年九州山口医科学学生大会

## Aクルー(蓋世)

- S 諸藤 (5年)
- 3 田辺 (4年)
- 2 崎元 (3年)
- B 高木 (4年)

## Bクルー(鴻図)

- S 山口 (3年)
- 3 末下 (2年)
- 2 近藤 (2年)
- B 及川 (5年)

## Cクルー(雄図)

- C 森 (5年)
- S 山道 (2年)
- 3 吉武 (2年)
- 2 和佐野 (2年)
- B 青山 (4年)

## ダブルスカル(碧)

- S 渡辺 (4年)
- B 松本 (5年)

## シングルスカル

- 豊田(静)
- ウイ(鳴滝)

## 男子オープンシエルフオア

### 予選A (4・3)

I	篠山(久留米大)	4	:37	:33	2位
II	日向(宮崎医大)	5	:05	:62	3位
III	浮立(佐賀医大)	3	:50	:25	1位
IV	不死鳥(宮崎医大)	-	:--	:--	除外

### 予選B (4・3)

I	神威(熊本大)	3	:41	:40	1位
II	名島(福岡大)	4	:35	:60	4位
III	蒼風(熊本大)	3	:43	:22	2位
IV	魁翔(佐賀医大)	3	:47	:46	3位

### 予選C (3・2)

I	雄図(長崎大)	3	:49	:97	2位
II	玄海(福岡大)	4	:23	:30	3位
III	鴻図(長崎大)	3	:49	:45	1位

### 準決勝A (4・2)

I	魁翔(佐賀医大)	3	:33	:96	2位
II	神威(熊本大)	3	:32	:07	1位

### 準決勝B (4・2)

III	鴻図(長崎大)	3	:37	:09	3位
IV	篠山(久留米大)	4	:20	:15	4位

### 準決勝B (4・2)

I	日向(宮崎医大)	4	:40	:81	4位
II	浮立(佐賀医大)	3	:41	:99	2位
III	蒼風(熊本大)	3	:39	:59	1位
IV	雄図(長崎大)	3	:48	:24	3位

決勝

I	浮立 (佐賀医大)	3	3	9	3	2	4位
II	魁翔 (佐賀医大)	3	3	5	7	7	3位
III	神威 (熊本大)	3	3	0	9	1	優勝
IV	蒼風 (熊本大)	3	3	4	4	3	2位

男子シエルフォア対校

予選A (3・2)

I	煌牙 (産業医大)	3	3	9	7	0	3位
II	魁偉 (佐賀医大)	3	3	4	7	3	2位
III	龍神 (熊本大)	3	2	5	9	4	1位

予選B (3・2)

I	天照 (宮崎医大)	3	3	9	6	9	2位
II	早良 (福岡大)	3	3	4	4	3	3位
III	蓋世 (長崎大)	3	3	9	3	0	1位

決勝

I	龍神 (熊本大)	3	3	1	5	5	1	優勝
II	蓋世 (長崎大)	3	3	2	8	4	7	2位

III	天照 (宮崎医大)	3	3	4	2	8	7	4位
IV	魁偉 (佐賀医大)	3	3	2	1	3	3	3位

男子ダブルスカル

決勝

I	碧 (長崎大)	3	3	5	3	7	0	3位
II	如水 (熊本大)	3	3	4	0	4	6	優勝
III	照葉 (宮崎医大)	3	3	5	1	2	9	2位

男子シングルスカル

予選A (4・2)

I	佐藤 (産業医大)	3	3	5	5	7	4	2位
II	名村 (熊本大)	3	3	5	4	2	1	1位
III	石躍 (熊本大)	4	4	1	8	3	6	3位
IV	豊田 (長崎大)	4	4	5	7	5	2	4位

予選B (4・2)

I	池淵 (宮崎医大)	3	3	5	8	6	0	1位
II	谷口 (熊本大)	4	4	0	2	2	9	2位
III	河村 (熊本大)	4	4	0	4	5	5	3位
IV	ウイ (長崎大)	5	5	1	4	2	2	4位

# 平成十一年度九州朝日レガッタ

## 決勝

I	谷口 (熊本大)	3 : 5 8 : 1 8	4位
II	佐藤 (産業医大)	3 : 5 0 : 3 7	優勝
III	池淵 (宮崎医大)	3 : 5 1 : 7 7	2位
IV	名村 (熊本大)	3 : 5 2 : 2 8	3位

### Aクルー (盖世)

C	西條 (4年)
S	先元 (3年)
3	田辺 (4年)
2	諸藤 (5年)
B	高木 (4年)

### Bクルー (鴻図)

C	田浦 (2年)
S	山口 (3年)
3	及川 (5年)
2	近藤 (2年)
B	末下 (2年)

### Cクルー (雄図)

C	森 (5年)
S	和佐野 (2年)
3	ウイ (5年)
2	大西 (1年)
B	青山 (4年)

### Dクルー (崎陽)

C	蓬莱 (4年)
S	山道 (2年)
3	高田 (1年)
2	西原 (1年)
B	吉武 (2年)

ダブルスカル (碧)

S 渡辺 (4年)

シングルスカル (静)

豊田 (2年)

(なお、Aクルー田辺は故障の為、本来のクルーではありません)

## 一般ナツクルフオア

予選A (5・3)

I	雄図 (長大医学部)	2 : 2 0 : 7 1	4位
II	BUSTERS	1 : 5 8 : 9 4	1位
III	大穴 (熊大医学部)	2 : 2 2 : 5 3	5位
IV	久留米大医学部	2 : 1 7 : 1 8	3位
V	瀬板 R・C	2 : 0 9 : 9 1	2位

予選B (4・2)

I	崎陽 (長大医学部)	2 : 4 3 : 6 6	2位
II	唐津 R・C	2 : 2 5 : 7 1	1位
III	三菱マテリアル	— : — : — : —	—
IV	大分大 B	2 : 4 3 : 9 8	3位

予選C (4・2)

I	新菱	2 : 1 3 : 1 2	3位
II	長大全学	2 : 0 6 : 6 5	1位
III	大分大 A	2 : 0 8 : 7 0	2位

IV あひる (熊大医学部) 2:21:37 4位

準決勝A (5・2)

I 久留米大医学部 2:33:70 3位

II 崎陽 (長大医学部) 2:35:92 5位

III BUSTERS 2:11:79 1位

IV 長大全学 2:25:26 2位

V 新菱 2:35:33 4位

準決勝B (5・2)

I あひる (熊大医学部) 2:34:45 4位

II 瀬板R・C 2:15:79 1位

III 唐津R・C 2:36:09 5位

IV 雄図 (長大医学部) 2:23:62 3位

V 大分大A 2:19:49 2位

決勝

I 瀬板R・C 2:09:82 3位

II 大分大A 2:09:54 2位

III BUSTERS 1:58:53 優勝

IV 長大全学 2:15:29 4位

V オープン優勝クルー 2:15:57 5位

一般男子ダブルスカル

予選A (5・2)

I 玖城会 3:28:93 2位

II 新日鐵八幡 3:30:08 3位

III BUSTERS 3:27:56 1位

IV 日田市漕艇部 4:15:08 5位

V 熊本学園大 3:55:50 4位

予選B (4・2)

I 熊本学園艇友会 3:37:30 1位

II 如水 (熊大医学部) 3:50:00 2位

III 碧 (長大医学部) 4:07:22 4位

IV 安川電機 4:04:43 3位

決勝

I BUSTERS 3:41:86 優勝

II 如水 (熊大医学部) 4:04:58 6位

III 玖城会 3:49:92 3位

IV 熊本学園艇友会 3:50:26 4位

V 熊本学園大 3:58:70 5位

VI 新日鐵八幡 3:45:21 2位

一般男子シングルスカル

予選A (5・2)	I 佐藤 (産業医大)	4 : 1 5 : 3 3	3位
	II スレトリ (九州大)	4 : 2 3 : 1 6	4位
	III 谷口 (熊大医学部)	4 : 4 3 : 2 7	5位
	IV 大成 (BUSTERS)	3 : 5 5 : 4 4	1位
	V 高野 (熊本学園大)	4 : 0 6 : 1 9	2位
予選B (5・2)	I 伊藤 (熊本大)	4 : 0 6 : 5 2	2位
	II 名村 (熊大医学部)	4 : 0 4 : 5 7	1位
	III 豊田 (長大医学部)	4 : 3 3 : 9 4	4位
	IV 水田 (唐津市役所)	4 : 2 6 : 8 3	3位
	V 徳久 (九州大)	5 : 4 5 : 2 8	5位
決勝	I 高野 (熊本学園大)	4 : 2 2 : 8 3	3位
	II 大成 (BUSTERS)	4 : 1 3 : 5 3	優勝
	III 伊藤 (熊本大)	4 : 4 9 : 0 6	6位
	IV 名村 (熊大医学部)	4 : 1 5 : 5 4	2位

一般男子シエルフォア

予選A (6・2)	I 鴻図 (長大医学部)	3 : 3 7 : 6 7	3位
	II 鳳龍 (九州工業大)	3 : 4 9 : 7 3	5位
	III 蒼風 (熊大医学部)	3 : 4 4 : 9 2	4位
	IV 博多EXPRESS	3 : 3 4 : 6 1	2位
	V 羅漢 (山口大)	3 : 2 5 : 6 7	1位
予選B (6・2)	I 新日鐵八幡	3 : 4 3 : 0 6	5位
	II 熊本大A	3 : 3 0 : 6 2	2位
	III 焯牙 (産業医大)	3 : 5 3 : 7 5	6位
	IV 九州大	3 : 3 1 : 2 9	3位
	V BUSTERS	3 : 2 9 : 5 3	1位
	VI 神威 (熊大医学部)	3 : 4 1 : 1 3	4位
予選C (6・2)	I 長大全学	3 : 3 1 : 3 3	2位
	II 龍神 (熊大医学部)	3 : 2 6 : 2 5	1位
	III 明専 (九州工業大)	4 : 2 4 : 8 9	5位
V 優勝	佐藤 (産業医大)	4 : 2 9 : 6 1	4位
VI	谷口 (熊大医学部)	4 : 3 9 : 7 0	5位

IV	熊本大B	—	—	—	—	—
V	蓋世(長大医学部)	3	:	4	2	: 2 4
VI	飛翔(熊本学園大)	3	:	3	5	: 7 1
		3	位			

準決勝A (6・3)

I	鴻図(長大医学部)	3	:	5	9	: 4 9
II	熊本大A	3	:	5	3	: 3 8
		3	位			

III	羅漢(山口大)	3	:	4	7	: 1 6
IV	龍神(熊大医学部)	3	:	4	4	: 1 2
V	神威(熊大医学部)	3	:	5	7	: 6 8
VI	蓋世(長大医学部)	4	:	1	6	: 7 4
		4	位			

準決勝B (6・3)

I	九州大	3	:	5	3	: 4 3
II	博多EXPRESS	3	:	5	4	: 1 6
III	BUSTERS	3	:	5	1	: 1 3
IV	飛翔(熊本学園大)	3	:	5	1	: 5 5
V	長大全学	3	:	5	7	: 3 7
VI	明専(九州工業大)	4	:	0	5	: 7 8
		6	位			

決勝

I	龍神(熊大医学部)	3	:	3	5	: 6 1
II	BUSTERS	3	:	3	3	: 7 1
		3	位			

III	熊本大A	3	:	3	9	: 6 5
		4	位			

IV	羅漢(山口大)	3	:	3	3	: 9 2
V	飛翔(熊本学園大)	3	:	4	1	: 2 9
VI	九州大	3	:	4	8	: 9 2
		6	位			

平成十一年県民体育大会漕艇部門

Aクルー(蓋世)

- C 西條 (4年)
- S 崎元 (3年)
- 3 田辺 (4年)
- 2 諸藤 (5年)
- B 高木 (4年)

Bクルー(鴻図)

- C 田浦 (2年)
- S 山口 (3年)
- 3 及川 (5年)
- 2 近藤 (2年)
- B 末下 (2年)

Cクルー(雄図)

- C 森 (5年)
- S 和佐野 (2年)
- 3 ウイ (5年)
- 2 大西 (1年)
- B 青山 (4年)

Dクルー(崎陽)

- C 蓬萊 (4年)
- S 山道 (2年)
- 3 高田 (1年)
- 2 西原 (1年)
- B 吉武 (2年)

ダブルスカル(碧)

- S 渡辺 (4年)
- B 松本 (5年)

シングルスカル(静)

- 豊田 (2年)

# 成年男子舵手付フォア

## 予選A (3・1)

I 園漕会 3 : 5 5 : 9 7 2位

II 蓋世(長大医学) 3 : 2 7 : 3 0 1位

III 雄図(長大医学) 4 : 1 9 : 7 8 3位

## 予選B (3・1)

I 鴻図(長大医学) 3 : 3 1 : 7 6 2位

II 佐高専 A 3 : 3 3 : 0 7 3位

III TRITON(長大全学) 3 : 2 3 : 3 3 1位

## 予選C (3・1)

I 佐高専 B 3 : 4 9 : 0 9 2位

II 園漕会&玖城会 3 : 2 7 : 9 2 1位

III 崎陽(長大医学) 3 : 5 9 : 9 4 3位

## 敗復 (3・1)

I 園漕会 3 : 5 0 : 8 3 3位

II 鴻図(長大医学) 3 : 3 7 : 0 4 1位

III 佐高専 B 3 : 4 6 : 6 0 2位

## 決勝

I TRITON(長大全学) 3 : 1 6 : 6 0 優勝

II 蓋世(長大医学) 3 : 2 0 : 1 1 3位

III 園漕会&玖城会 3 : 1 7 : 9 7 2位

IV 鴻図(長大医学) 3 : 2 6 : 2 6 4位

## 成年ダブルスカル

## 決勝

I ー ー ー ー ー

II 玖城会 3 : 2 8 : 1 6 優勝

III 碧(長大医学) 3 : 5 3 : 0 5 2位

## 成年シングルスカル

## 予選A (3・2)

I 辻 史生(園漕会) 4 : 1 8 : 7 9 3位

II 渡辺和宏(玖城会) 3 : 5 3 : 2 7 1位

III 西村嘉剛(玖城会) 4 : 1 1 : 8 6 2位

## 予選B (3・2)

I 豊田啓介(長大医学) 4 : 1 6 : 2 3 3位



# 平成十一年度西日本医科学生大会

## 決勝

III	II	I	II	III	IV
石平正己 (園漕会)	山本義晃 (園漕会)	山本義晃 (園漕会)	渡辺和宏 (玖城会)	石平正己 (園漕会)	西村嘉剛 (園漕会)
4 : 0 8 : 4 3	4 : 1 1 : 4 7	3 : 5 1 : 3 6	3 : 4 0 : 1 2	3 : 5 2 : 2 4	3 : 5 0 : 9 3
1位	2位	3位	優勝	4位	2位

## Aクルー (盖世)

C 西條 (4年)	S 崎元 (3年)	3 田辺 (4年)	2 諸藤 (5年)	B 高木 (4年)
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

## Bクルー (鴻図)

C 田浦 (2年)	S 山口 (3年)	3 及川 (5年)	2 近藤 (2年)	B 末下 (2年)
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

## Cクルー (雄図)

C 森 (5年)	S 山道 (2年)
----------	-----------

## Dクルー (崎陽)

C 蓬萊 (4年)	S 大西 (1年)
-----------	-----------

## 男子ナツクルフオア

### 予選A (6・3)

I	II	III	IV	V	VI
槍翠 (産業医大)	雄図 (長崎大)	阿修羅 (熊本大)	CANOPUS (大阪大)	金沢大P (金沢大)	湖神 (滋賀医大)
4 : 0 9 : 3 4	4 : 0 1 : 8 7	4 : 1 8 : 6 8	4 : 2 7 : 6 9	4 : 1 8 : 5 1	4 : 1 0 : 8 2
2位	1位	5位	6位	4位	3位

### 予選B (6・3)

I	II	III
神叡 (滋賀医大)	広島大X (広島大)	轟天 (佐賀医大)
3 : 5 5 : 3 9	4 : 3 5 : 8 5	4 : 0 5 : 1 8
1位	5位	2位

### ダブルスカル (碧)

3 吉武 (2年)	2 和佐野 (2年)	B 青山 (1年)
-----------	------------	-----------

### シングルスカル (静)

3 高田 (1年)	2 西原 (1年)	B ウイ (5年)
-----------	-----------	-----------

IV	鳥取大	—	—	—	—	—
V	T漕 (金沢大)	4	1	9	7	5
VI	浜松医大A (浜松医大)	4	2	0	4	1

予選C (6・3)

I	泰斗 (滋賀医大)	3	5	1	6	8
II	日向 (宮崎医大)	4	0	0	8	7
III	天啓 (岡山大)	3	5	9	4	5
IV	京都大	4	1	2	7	5
V	春叡 (滋賀医大)	4	1	0	7	8
VI	昇龍 (熊本大)	4	1	2	1	6

予選D (6・3)

I	太陽 (大阪大)	4	5	5	3	9
II	せいうち (浜松医大)	4	1	4	0	9
III	桃太郎 (産業医大)	4	0	9	0	5
IV	天颯 (岡山大)	4	0	2	8	6
V	崎陽 (長崎大)	4	3	5	0	5
VI	倭神 (和歌山県立医大)	4	2	4	8	7

敗復A (6・3)

I	崎陽 (長崎大)	4	3	4	4	3
II	阿修羅 (熊本大)	4	2	1	4	7
III	春叡 (滋賀医大)	4	1	5	8	3
IV	金沢大P (金沢大)	4	1	7	3	7

V	CANOPUS (大阪大)	4	3	3	9	0
VI	—	—	—	—	—	—

敗復B (6・3)

I	広島大X (広島大)	4	3	5	9	5
II	浜松医大A (浜松医大)	4	3	1	5	0
III	昇龍 (熊本大)	4	1	3	7	5
IV	京都大	4	1	8	0	5
V	倭神 (和歌山県立医大)	4	2	0	5	7
VI	太陽 (大阪大)	4	4	2	0	3

準決勝A (6・2)

I	昇龍 (熊本大)	3	5	7	5	9
II	轟天 (佐賀医大)	3	5	9	0	5
III	泰斗 (滋賀医大)	3	4	8	5	2
IV	天颯 (岡山大)	3	5	4	7	7
V	T漕 (金沢大)	4	1	6	5	8
VI	阿修羅 (熊本大)	4	0	8	1	5

準決勝B (6・2)

I	春叡 (滋賀医大)	3	5	2	6	2
II	桃太郎 (産業医大)	3	5	3	4	5
III	神叡 (滋賀医大)	3	4	9	2	2
IV	雄図 (長崎大)	3	5	1	8	3

男子ダブルスカル

VI	V
倭神 (和歌山県立医大)	せいうち (浜松医大)
4 : 0 4 : 3 7	4 : 0 3 : 6 6
6位	5位

準決勝C (6・2)

I	II	III	IV	V	VI
金沢大P (金沢大)	槍翠 (産業医大)	天啓 (岡山大)	日向 (宮崎医大)	湖神 (滋賀医大)	京都大
4 : 2 8 : 1 7	4 : 0 0 : 7 9	3 : 5 4 : 5 1	4 : 0 4 : 4 8	4 : 0 3 : 9 8	3 : 5 9 : 1 5
6位	3位	1位	5位	4位	2位

決勝

I	II	III	IV	V	VI
神叡 (滋賀医大)	天啓 (岡山大)	天颯 (岡山大)	京都大	泰斗 (滋賀医大)	雄図 (長崎大)
4 : 1 5 : 4 3	4 : 2 6 : 4 7	4 : 1 1 : 1 4	4 : 3 2 : 4 6	4 : 0 9 : 1 3	4 : 2 9 : 4 6
3位	4位	2位	6位	優勝	5位

予選A (5・2)

I	II	III	IV	V	VI
ジョナサン (滋賀医大)	京都府立医大	瑞光 (岡山大)	照葉 (宮崎医大)	華月 (広島大)	滋賀医大A (滋賀医大)
3 : 3 4 : 7 8	- : - : - : -	3 : 4 5 : 1 7	3 : 3 2 : 0 3	5 : 0 8 : 1 6	3 : 4 3 : 6 6
2位	-	4位	1位	5位	3位

予選B (5・2)

I	II	III	IV	V
疾風 (宮崎医大)	如水 (熊本大)	とくちん (佐賀医大)	滋賀医大B (滋賀医大)	碧 (長崎大)
3 : 5 0 : 3 3	3 : 4 8 : 6 8	4 : 1 7 : 9 3	3 : 3 6 : 8 4	4 : 0 8 : 0 1
3位	2位	5位	1位	4位

敗復 (6・2)

I	II	III	IV	V	VI
とくちん (佐賀医大)	疾風 (宮崎医大)	滋賀医大A (滋賀医大)	瑞光 (岡山大)	碧 (長崎大)	華月 (広島大)
3 : 5 8 : 4 8	3 : 3 8 : 3 6	3 : 3 4 : 4 0	3 : 4 2 : 0 3	3 : 5 3 : 7 1	4 : 1 8 : 0 4
5位	2位	1位	3位	4位	6位

決勝

I 如水(熊本大) 3:5 3:7 9

II 滋賀医大A(滋賀医大) 3:5 1:8 5

III 疾風(宮崎医大) 3:5 4:6 1

IV 照葉(宮崎医大) 3:5 0:6 8 優勝

V ジョナサン(滋賀医大) 3:5 4:2 1

VI 滋賀医大B(滋賀医大) 3:5 7:7 1

男子シングルスカル

予選A (6・3)

I 静(長崎大) 4:0 2:6 5

II 金沢大Q(金沢大) 4:3 1:6 5

III 徳島大 3:5 3:4 6

IV 明星(岡山大) 3:4 2:4 2

V 京都大 3:5 7:3 9

VI 滋賀医大A(滋賀医大) 3:4 1:4 3

予選B (5・2)

I 岡山大 4:5 4:9 1

II 名村(熊本大) 3:4 3:6 2

III 滋賀医大B(滋賀医大) 3:4 2:7 3

IV 流川(広島大) 4:0 6:7 4

V 産業医大 3:4 9:8 7

敗復 (6・3)

I 金沢大Q(金沢大) 4:1 8:3 7

II 静(長崎大) 4:0 7:5 6

III 産業医大 4:0 3:7 8

IV 京都大 4:0 5:6 1

V 流川(広島大) 4:0 5:7 8

VI 岡山大(香川大) 4:5 3:3 8

準決勝A (4・2)

I 徳島大 3:4 1:8 3

II 滋賀医大A(滋賀医大) 3:4 1:3 9

III 名村(熊本大) 3:4 3:3 6

IV 流川(広島大) 4:0 1:7 0

準決勝B (4・2)

I 産業医大 3:4 7:7 9

II 明星(岡山大) 3:4 4:6 2

III 滋賀医大B(滋賀医大) 3:4 6:1 4

IV 京都大 4:0 3:5 7

決勝

I 徳島大 4:0 4:0 0

II 滋賀医大B(滋賀医大) 4:0 8:9 5

III 明星(岡山大) 4:0 9:5 7

IV 滋賀医大A(滋賀医大) 4:1 8:8 0

男子舵付フオア

一次予選A (6・3)

I 不死鳥 (宮崎医科大学) 3 : 3 0 : 9 3

II 京都府立医大 3 : 2 5 : 9 3

III 紅蘭 (京都大) 3 : 2 9 : 1 5

IV elviento (鳥取大) 3 : 2 7 : 6 7

V 煌牙 (産業医大) 3 : 3 3 : 1 5

VI 瀛 (浜松医大) 3 : 3 1 : 6 4

一次予選B (6・3)

I TRISTAN (大阪大) 3 : 2 1 : 2 9

II 魁翔 (佐賀医科大学) 3 : 2 4 : 3 3

III 瀏濫 (浜松医大) 3 : 2 9 : 5 1

IV 紅駿 (京都大) 3 : 2 7 : 7 0

V 玄海 (福岡大) 3 : 5 6 : 0 1

VI 天風 (岡山大) 3 : 2 0 : 5 9

一次予選C (6・3)

I 芝蘭 (京都大) 3 : 2 3 : 6 8

II 飛騨 (滋賀医科大学) 3 : 1 7 : 4 4

III 広島大学B 3 : 4 6 : 0 7

IV 天照II (宮崎医大) 3 : 2 1 : 1 7

V 蓋世 (長崎大) 3 : 2 5 : 1 7

VI 龍神 (熊本大) 3 : 2 2 : 2 1 3位

一次予選D (5・3)

I PEGASUS (鳥取大) 3 : 4 4 : 2 3

II 湍 (浜松医大) 3 : 2 8 : 2 5

III 青洲 (和歌山県立医大) 3 : 4 5 : 1 7

IV 浮立 (佐賀医科大学) 3 : 3 7 : 7 8

V 神威 (熊本大) 3 : 2 8 : 9 4

一次予選E (5・3)

I 魁偉 (佐賀医科大学) 3 : 2 8 : 9 2

II 蒼風 (熊本大) 3 : 3 3 : 1 8

III 広島大学A 3 : 4 7 : 4 8

IV 洗洋 (浜松医大) 3 : 3 9 : 6 6

V PERSEUS II (大阪大) 3 : 3 5 : 5 1

一次予選F (5・3)

I 早良 (福岡大) 3 : 4 2 : 2 5

II 波平A (香川医大) 4 : 0 9 : 7 7

III 鴻図 (長崎大) 3 : 3 1 : 0 2

IV 重徳 (金沢大) 3 : 4 6 : 0 5

V TITAN (大阪大) 3 : 4 3 : 4 8

一次敗復A (5・3)

I 広島大学A 3 : 5 1 : 4 1

V	紅蘭 (京大)	3 3 3 4 4 8	4 位
IV	魁翔 (佐賀医大)	3 3 6 1 3	5 位
III	飛騨 (滋賀医大)	3 2 6 5 4	1 位
II	京都府立医科大	3 2 9 0 9	2 位
I	鴻図 (長崎大)	3 3 1 0 6	3 位
二次予選 A (6・3)			
V	青洲 (和歌山県立医大)	3 4 5 7 7	3 位
IV	瀏濫 (浜松医大)	3 3 9 3 3	2 位
III	紅駿 (京大)	3 3 6 8 9	1 位
II	PEGASUS (鳥取大)	3 4 6 5 2	4 位
I	波平 A (香川医大)	4 1 1 5 6	5 位
一次敗復 C (5・3)			
V	広島大学 B	4 0 0 7 6	4 位
IV	不死鳥 (宮崎医大)	3 3 5 3 1	1 位
III	蓋世 (長崎大)	3 3 5 7 9	2 位
II	洗洋 (浜松医大)	3 4 1 6 4	3 位
I	玄海 (福岡大)	4 0 2 6 5	5 位
一次敗復 B (5・3)			
V	重徳 (金沢大)	3 4 4 6 3	4 位
IV	瀛 (浜松医大)	3 3 1 4 1	2 位
III	芝蘭 (京大)	3 2 9 4 7	1 位
II	煌牙 (産業医大)	3 3 3 5 1	3 位

VI	TITAN (大阪大)	3 4 6 9 7	6 位
二次予選 B (6・3)			
I	蒼風 (熊本大)	3 3 9 2 5	5 位
II	elviento (鳥取大)	3 2 9 0 2	4 位
III	天風 (岡山大)	3 1 7 7 8	1 位
IV	龍神 (熊本大)	3 2 3 8 3	2 位
V	神威 (熊本大)	3 2 7 8 4	3 位
VI	早良 (福岡大)	3 4 5 9 4	6 位
二次予選 C (6・3)			
I	PERSEUS II (大阪大)	3 3 8 5 4	5 位
II	湍 (浜松医大)	3 2 2 9 3	1 位
III	天照 II (宮崎医大)	3 2 5 2 1	2 位
IV	TRISTAN (大阪大)	3 2 5 5 7	3 位
V	魁偉 (佐賀医大)	3 3 0 2 7	4 位
VI	浮立 (佐賀医大)	3 4 0 5 2	6 位
二次敗復 A (6・3)			
I	不死鳥 (宮崎医大)	3 2 8 4 3	3 位
II	浮立 (佐賀医大)	3 2 9 3 1	4 位
III	elviento (鳥取大)	3 2 6 2 9	1 位
IV	蒼風 (熊本大)	3 3 0 1 4	5 位
V	煌牙 (産業医大)	3 2 7 6 9	2 位
VI	青洲 (和歌山県立医大)	3 4 0 3 4	6 位

二次敗復B (6-1-3)

I	蓋世 (長崎大)	3 : 1 : 9 : 7 : 3	1位
II	早良 (福岡大)	- : - : - : - : -	
III	魁偉 (佐賀医大)	3 : 2 : 0 : 3 : 6	2位
IV	PEGASUS (鳥取大)	3 : 2 : 5 : 2 : 7	4位
V	瀛 (浜松医大)	3 : 2 : 0 : 8 : 4	3位
VI	洗洋 (浜松医大)	3 : 3 : 3 : 1 : 1	5位

二次敗復C (6-1-3)

I	紅駿 (京都大)	3 : 2 : 4 : 8 : 3	3位
II	TITAN (大阪大)	3 : 3 : 2 : 4 : 0	6位
III	紅蘭 (京都大)	3 : 2 : 2 : 3 : 5	2位
IV	魁翔 (佐賀医大)	3 : 2 : 5 : 2 : 7	4位
V	芝蘭 (京都大)	3 : 2 : 1 : 0 : 7	1位
VI	瀧濫 (浜松医大)	3 : 2 : 8 : 8 : 8	5位

準決勝A (6-1-2)

I	芝蘭 (京都大)	3 : 3 : 6 : 9 : 8	3位
II	神威 (熊本大)	3 : 3 : 8 : 9 : 2	4位
III	天風 (岡山大)	3 : 3 : 4 : 1 : 2	2位
IV	飛騨 (滋賀医大)	3 : 3 : 3 : 2 : 6	1位
V	瀛 (浜松医大)	3 : 4 : 7 : 9 : 8	5位
VI	不死鳥 (宮崎医大)	3 : 5 : 0 : 2 : 5	6位

準決勝B (6-1-2)

I	紅蘭 (京都大)	3 : 4 : 6 : 1 : 0	5位
II	京都府立医大	3 : 3 : 8 : 1 : 0	3位
III	湍 (浜松医大)	3 : 3 : 6 : 3 : 2	1位
IV	TRISTAN (大阪大)	3 : 3 : 7 : 5 : 8	2位
V	魁偉 (佐賀医大)	3 : 4 : 5 : 1 : 7	4位
VI	煌牙 (産業医大)	3 : 5 : 3 : 4 : 5	6位

準決勝C (6-1-2)

I	紅駿 (京都大)	3 : 5 : 3 : 2 : 3	5位
II	鴻凶 (長崎大)	3 : 5 : 0 : 4 : 2	4位
III	龍神 (熊本大)	3 : 4 : 8 : 1 : 9	2位
IV	天照II (宮崎医大)	3 : 4 : 7 : 6 : 8	1位
V	蓋世 (長崎大)	3 : 4 : 9 : 9 : 9	3位
VI	eliviento (鳥取大)	4 : 0 : 2 : 1 : 3	6位

順位決定戦

I	芝蘭 (京都大)	3 : 4 : 0 : 5 : 4	1位
II	蓋世 (長崎大)	3 : 4 : 2 : 1 : 0	3位
III	京都府立医大	3 : 4 : 1 : 1 : 6	2位
IV	神威 (熊本大)	3 : 4 : 4 : 2 : 5	4位
V	魁偉 (佐賀医大)	3 : 4 : 8 : 7 : 0	5位
VI	鴻凶 (長崎大)	3 : 5 : 1 : 1 : 4	6位

決勝戦

I	天照II (宮崎医大)	3 : 3	1 : 4	6	2位	
II	湊 (浜松医大)	3 : 3	1 : 7	0	3位	
III	TRISTAN (大阪大)	3 : 3	7 : 9	2	5位	
IV	天風 (岡山大)	3 : 3	2 : 8	3	7	優勝
V	龍神 (熊本大)	3 : 3	4 : 1	0	7	6位
VI	飛騨 (滋賀医大)	3 : 3	1 : 9	4	4位	

COX



# COX記

## Aクルー記

4年 西條 知見

(九山)

冬の間、浦上川で練習したのだが、試験などの関係により、思うように練習ができず4、5回の乗艇で終わってしまった。九山までの練習目標としてはロングを漕ぎ込んでいくというもので、最長90分を目標にした。しかし、なかなか集中力が持続せず90分きれいなフォームと蹴りを維持していくことができなかった。また、春合宿からパドルを組み込んだ。春合宿が終わる頃には、高木、崎元も艇に慣れ、九山優勝も可能かと思われたのだが、熊大に3艇身程つけられ2位に終わった。反省点としては、コンスタントの力強さが無いということであった。

(九朝)

田辺の腰痛により出場を辞退。この時期は、ロングを主体に練習していた。

(県漕)

県漕は西医体前の小さいピークを作るつもりで練習を行った。4月、5月はロングを主体にし、6月に入ったあたりでパドルを入れ

た。本数的には大体900本。レースは3位。全学と園漕会に負けた。このレース展開だけははつきり覚えている。スタートは横並び、200m〜700mで全学に2艇身、園漕会に1.5艇身ほどつけられていたので700mを少し過ぎたところでスパートを入れてしまった。反省してみるとコンスタントが弱いというのが実感させられたレースだった。また、西医体に対する焦りが大変感じられたレースだった。

(西医体)

6月〜夏合宿まではロング主体に練習を行った。キャッチがあわなかったために、氏家コーチのおっしゃったハンズアウェイを速くし、キャッチ前のスライドをゆっくり動いて少々キャッチを待つ感じの漕ぎという漕ぎ方に変えた。夏合宿にはいるとパドルを行い、これも上記の漕ぎ方で練習した。ピークは990本。ただ、なかなかコンスタントのスピードが伸びず、不安を残したまま西医体に突入してしまった。西医体は準決勝敗退。反省点としては、ピッチをあげるためにレンジが切れてしまい、コンスタントのスピードがピッチの割に出ていなかったことにあると思われる。

インカレ：西医体後の2週間、2000mの練習として8分間のパドルを行った。しかし、1000mと2000mの漕ぎの違いや、西医体後の練習ということもあり、なかなか練習所田尾が満足できる内容のものではなかった。試合では、他大学とのレベルの差を見せつけられてしまった。

反省：最後までコンスタントのスピードが伸びなかった。理由と

しては、時間をこなしたものの内容的な反省が少なかつたことや、並べる相手が身内だけということにより自分達の位置付けが分からないこと、練習内容が単調なために集中力が途切れたこと等が挙げられる。これはクルーの士気を統制すべきコックスの責任である。また、部内でクルー同士が並べることが少なくなつてきているので、試合において他大学と並んだ時に冷静さを欠く原因になつている。これは至急改善しなければならぬ。

## Bクルー記

2年 田浦 康明

Bクルーが編成され、最初に掲げた目標は「九山オープン優勝、西医体準決勝以上進出」であつた。この目標は決して高いものではないが、近年のBクルーの成績と2年生を二人含んでいるという状況を考えると、厳しいのではないかと考えていた。練習内容としては、春には主に技術練習を主体としたメニューで、九山以降はすべて西医体を考えての内容となつた。

(九山)

2番艇以下が主役となる試合はこの九山オープンぐらいであり、また今後の試合を占う大事なレースである。

予選は楽勝の組み合わせ、1位上がりを目指す。スタート、ローイングで福大が消え準決勝進出確定。ローイングで伸びがなく

Cクルーと並んだまま。コンスタントに入るが逆にピッチが上がりオールはばたつく。1分で足蹴り入れるが効果なく、500m前後で逆にでられる。そのまま進み、残り50mでCを抜き1位ゴール。

準決は佐賀医、熊医の2番艇とぶつかる。もちろん全力で。スタートで久留米大消え、佐賀医、熊医に半艇身でられる。1分の足蹴りでやや伸び、ピッチも32弱に安定。500mで足蹴り入れるが差かわらず、熊大トップ、佐賀と半艇身差、ここから佐賀医ねらい。700mで2枚上げ、差が少し縮まるが900mこえてピッチ、艇速共に落ち3位でゴール。勝てるはずの試合を落とすのは本当にいたい。この試合後に、打倒 神威、を追加。

(九朝)

上位進出というよりは、打倒 神威、を目指して臨む。予選組み合わせ厳しい。スタートでいつものようにばたつき出遅れる。1分の足蹴りでようやくフォワードおちつき、500mの足蹴りで碧風に半艇身差までせまる。このとき3位。700mから2枚上げ、伸びはあるが、2位との差ちぢまらずそのままゴール。敗復はスタート、ローイング予選よりうまくいく。1分で足蹴り入れるが、ピッチ高いまま、500m前の足蹴りでようやく落ち着く。600mで2枚上げ、800mで更に2枚上げ。やや差が縮まつて3位でゴール。

準決因縁の神威と同レース。スタート、ローイングうまくいく。

500 mの足蹴り直後神威よりも頭ひとつぬけるも終盤の2枚上げ入らず最後でせりまける。

#### (県漕)

予選は勝てる組み合わせ。

スタートで艇速だせず約1艇身差の3位発進。250 m、500 mと足蹴り、2回目の足蹴りで2位とキャンパス差まで縮める。700 mから2枚上げ、のびはいまいちだが相手が若干落ちて850 mすぎでさす。キャンパス分出たまま2位でゴール。敗復、スタートあわず全艇だんご状態。ローイングぬけで、250 m足蹴り、2位と1艇身以上の差。次の足蹴り、2枚上げはぶいて1位ゴール。

なぜか決勝進出。スタートうまくいくも4位。250 m足蹴りまではたつきもなく3位と半艇身差ほど。500 mの足蹴りで他艇との差が開き、700 m、900 mで2枚上げ、ミスもなくゴール。

#### (西医体)

森さんいわく、「運も実力の内」と言うなら、Bクルーの組み合わせは最良のもの。準決勝進出も難しくくない。

予選1回目、スタート曲がらずにいき、ローイングまでだんご状態、その後頭出る。250 m足蹴りで完全に1位。500 mの足蹴りでは艇速伸びない。800 mで2枚上げ、最初のびるが終盤おちる。1位ゴール。予選2回目、スタートでやや整調サイドに曲が

る。滋賀医が抜け出し他はだんご。1分足蹴りは伸びが足りず3位前後。500 m足蹴り入って3位になる。4位と半艇身ほど。700 mで2枚上げ、ピッチ36、艇速のび、850 mでさらに2枚上げ、そのまま3位でゴール。準決勝進出。

準決勝、周囲は対校艇ばかり、チャレンジ心で挑む。スタートけり弱く5位発進。ローイング、コンスタントで艇速ではじめ2位と半艇身差ほど。1分足蹴りでややぬけだし3位。450 m足蹴り入れ、龍神と1艇身差弱。ここでまさかの大波。龍神寄ってきて半艇身差。700 m2枚上げ、艇速のびるが差縮まらず後半ピッチ落ちる。最後でAクルーにさされ4位でゴール。

順位決定、スタートからけり弱く、完全に出遅れ6位発進。1分、450 m、600 mで足蹴りを入れるが艇速のびない。最後まで6位のままゴール。準決勝進出で気が抜けたのからしくないレースとなった。

#### (総括)

九山での敗退以来、打倒・神威を目指してレースをしてきたが、タイムの上ではこれを上回る記録は出せなかった。実力的には各大学の2番艇なかでもトップクラスであったことは疑いない。及川さんにとってももらったことも大きいですが、クルー全員が良く頑張ってくれた。唯一、最後の試合が悔いが残る。「終わり良ければ全てよし」を全うすべく、来季は最後まで気をぬかずやってほしい。近年指摘されてきた、層の薄さは今回の結果で改善されたと思う。しかし、より大切なことは、この実力を保ちつづけることである。今

シーズンは、挑戦の年であったが、来シーズンからは、証明する年であることをBクルーに乗る人間は肝に命じてほしい。

## Cクルー記

(九山)

C森S山道3吉武2和佐野B青山

このクルーは九山後におそらく解散するということもあり、長期的な見通しを持って練習することができず、付け焼き刃的な形にしかならなかった。ライパ中心にメニューを組み、3とBを当初と変更した。

オープン予選。2レーン福大「玄海」。3レーンBクルー。3の2上がりなのでミスをして上がれる組み合わせ。予想通り(?)スタートでしくじり、艇が完全に止まる。福大に勝つだけではないので焦ることなく持ち直し、300m前後で福大を抜き、中盤以降はBと併走し準決を考えて上げずにゴール。2位。

準決。2レーンの佐賀医「浮立」、3レーンの熊大「蒼風」のどちらかに勝てば決勝。もう一方の準決レースよりは勝てそうな組み合わせ。余力があるのと、タイムでそれほど負けてないのとで期待に胸が膨らむ。が、実際にレースが始まるとミスはないものの艇速が全く伸びず、ずるずると3位でゴール。熊大、佐賀医との3rd

艇同士対決で敗退。

2レースきっちり漕げるだけの体力はオフにつけるべき(とはいってもテストを間に挟んじゃうけど)。九山の成績はエルゴに相関するようなので勝ちたい人は冬に頑張りましょう。

(4年 青山 英和)

(九朝)

「ねえ、コックスやらせて。」といったら「ナイスタイミングの一言でコックスを務めることに。ナックルといえどもそれなりに緊張したが、和佐野のシブい美白顔に怖さも忘れる。とりあえずスタート4本いれたら後は漕ぎまくるという方針でスタート。スタートでは全艇並ぶが、中盤には3位となっている。なんとしても6レーンの山大を抜きたいと2枚上げを連呼！自分は何をいつているのかも分からないままゴール。結局3位となり上がれず。8枚上げごころうさま

(4年 渡辺 庸平)

(県漕)

今回のレースでは蓋世に当たっていることもあり、園漕会に食い付いて準決勝にできることを目指した。スタートで他の2艇に大きく出られ、そのまま差を広げられて完敗した。タイムで見ると同じ1年生混合クルーである崎陽に20秒も離されており、上級生が1年生を引つ張りきれていなかったといえよう。技術的に大きな問題があることは確かだが、後半艇速が極端に落ちてしまったことは、基礎体力が十分でないことを露呈している。かなり恥ずかしい負け方

といえ、今後一層の努力をしなければと感じた。

(2年 和佐野 喜也)

## Dクルー記

4年 蓬萊 彰士

(九朝)

1年生のデビュー戦となったこの試合、当然のごとく全くいい程漕げない状態でスタートとなった。整調とバウは2年生なので少しはましかなとは思ったが、いざ、スタートとなると1年生が切れ込むなどしてブレーキとなりなかなか進まず敗復に回るのかと思つた300m地点で大分大Bがほぼ並んでいるではないか。足どり、2枚上げといった追い上げのテクニクを持たない状態ではただ、ける！ける！とカエルのように叫ぶしかなくあとは祈るのみ。

最後の方で高田が声をあげる。全員必死だ！頼む、なんとかゴールしてくれ！その祈りが通じたのか大分大Bとなると0,32秒差で逃げ切り2着でゴール。1年生クルーとしては何年ぶりかという一発での予選突破を成し遂げたのであった。……なお、大分大Bはコックス以外全員が女子であったことを付記しておく。

(県漕)

九朝と同じメンバーで乗り続けたかいもあり直前の練習では上級生の漕手が3人いるCクルーとライトパドルを並べて勝てるようになるまでに成長した。もう女は敵じゃない！さて、予選の組み合わせは1レーンが佐工専B、2レーンが園漕会&玖城会で3レーンでのスタートとなった。1レーンに食らい付いていこうとするもののスタート練習してないこともあり、1艇身程でられるが、その後、差はつかず足げりで少しずつつめていくが、600m付近で1年生2人が相次いで切れ込み、3位でゴール。4分を切るのがやっとだった。

(西医体)

夏合宿直前にクルー変更があり、大西、高田、西原の1年生3人に5年生のウイが乗ることとなった。期間が短く、パドルの練習が不十分で、そのうえ、大西の整調初体験ということもあり、特に後半でのピッチが安定せず、2枚上げがなかなか入らないどころかピッチが後半から落ちていく始末。そこで予選。岡大2番艇を筆頭にロートルクルー2つとあたり、苦しい状況、とりあえず、勝てる可能性のある1レーン大阪大と6レーン和医大をマークしてスタート。やはり、上位3艇がスタートから飛び出し、スタート直後100m過ぎでは最下位で1,6レーンと半艇身、1艇身となった。その後阪大は切れ込むなどしてかんぜんにとまり、5位に浮上。和医大と1艇身弱のまま後半にはいるが、やはりピッチが上がるどころか下がり始め、2枚上げを入れても下がりがどまるのがやっとで結局2艇身の差をつけられ5位となり敗復へ。敗復では、やはり似た様なメンバーのクルーばかりでチャンスはあった。とにかく後半全員でピッチを考え、落とさずに上げていくことを確認して1レーンで

のスタートとなった。やはりスタートが弱いのか、最初の100mでは4位であった。となりの2レーンには半艇身差で3位をいく熊大クルーがいた。2レーンを抜くことだけを考え後半のピッチは落ちることはなく650m付近で2枚上げをいれ、ピッチも上がり、艇速も伸び、ジリジリと差をつめていくが、750m過ぎで2番のシートがはずれ、大幅な艇速ダウン。結局5位でゴール。いかんせんパドルの練習量が絶対的に不足であった。1年生クルーでもできる限りパドルでしっかり漕ぎこまなければ……と痛感した。

## ダブルスカルクルー記

4年 渡辺 庸平

(九山)

一発決勝レース。熊大と宮医も組んですぐのクルーなので全く展開が読めなかったが、スタートしてすぐ熊大が出た。遅れて長大と宮医がずっと並走していたがゴール前でさされて3位。

(九朝)

予選。熊大以外は知らないクルーばかりで少々とまどう。イマイチ、スタートが上達していないので、とりあえずきれいにスタートすることを心掛けた。スタートしてローイングおわるころには他艇に1艇身程遅れる。コンディションも悪く、バタバタと漕いでいるうちにゴール。安川電機のおやし達に半艇身負けたのが悔しい。

敗復。コンディションもよくないのでとりあえずきれいに漕ごうとした。スタートはよくも悪くもないがとりあえず遅れをとつてしまい、予選のようにバタバタと漕いで日田漕艇部と並走しながら進んでいたが最後さされる。どうもこの2々3試合は同じ様な試合展開ばかりだ。

(県漕)

一発決勝でしかも2艇レース。相手はここ2、3年毎年国体にているクルー。勝とうとは思っていないがどこまで食い下がれるかのレースだ。スタートの4本目くらいからサツと消えた。彼らは3々4艇身をはなしてゴール。我々は蛇行しながらやっとゴール。形上湾って漕ぎづらいんだと実感。しかし、こんなに差が……。

(西医体)

予選

直前で京府が棄権したために勝てば決勝となるレース。テンション上げたいところだが、調整のストレッチャーは折れる寸前となっている。スタートの直前まで何かと修理したりで焦るは、手から出血するはで(ネジを急いでしめたので)調整はパニック寸前。しかしバウはいたって冷静である。なんとかスタートしたものの、ミシミシと音をたてるストレッチャーを蹴りあげるのは怖かった。以前とは違って、スタートで大きく出遅れることはなかったが、中盤以降徐々に遅れをとる。ラストで2枚上げを入れて何とか4位になるのが精一杯だった。

敗復

負ければシーズン最後の試合となる。しかしいつものようにミーティングもなく静かに出艇。整調のストレッチャャーは折れかかっているが、もうかまうものか。スタートは少し蛇行したので遅れかけたが、中盤の足げり以降艇速はのびて佐賀医をかわし、他の艇をつかみかける。ラストはどの艇も上げたのでそのまま4位でゴール。シーズンが終わった。

## シングルスカルクールー記

2年 豊田 啓介

(九山)

デビュー戦。スタート時にあせりから切れ込み、差をつけられる。まっすぐ進むことができず、ゴール寸前で浅瀬に乗り上げそうになる。4分56秒

(九朝)

コンディションのよくない状態での試合。500mまでは順調であったが、それからはブイにあたり減速する。2試合行ったが、平均タイムは4分30秒。

(県漕)

コースが少し曲がっているために600m付近から乱れ始める。900mからコースをはずれてゴールする。4分16秒。

(西医体)

予選

今までで最も良く漕げた試合であった。4分2秒。

敗復

スタートではうまく差をつけることができたが、途中3コースの艇がコース内に入ってきて、審判艇の判断に戸惑い漕ぐのをやめてしまう。4分7秒。

# 卒業にあたって

## ギブニズム終章

6年 福田 義文

卒業が決まってしまうえば何とも言えるものだが、思えばこの8年間はまさに「人生山あり山あり」であり、「一難去つてまた百難」であり、人生楽なし苦くばかりさく」であつた。医学部という所は狭い世界であり様々な文化ではぐくまれそれぞれに異なる価値観を確立したもののたちスクランブルである。時には悪意のないのに各々考えの相違で先に進めなくなることもあり、場の收拾に苦労したことも数多い。そして何事もがむしゃらに努力さえすれば必ずや報われると思つていたこのオレの考えがいかに甘いものであつたかということを痛感させられることも数知れずあつた。

ただ、どのような状況下においても、オレ自身は意外に冷静に状況判断してきたように思えるし、その積み重ねが目に見えたカタチで結実してくれたのも事実。何よりも、どのような厳しい環境下におかれてもオレは自分の判断を誤ることなく荒海を航海してこれたことに誇りを感じている。決して楽ではなかつたボート部での練習生活も、九州インカレで借艇の重いヤマハ艇でしかも外れたクラッ

チのピンをビニールテープでぐるぐる巻きにして出場し、そして勝ち得た準優勝の思い出、また5人全員上半身裸になつて練習したSクルーの重い出など、あとになればいい事ばかりだつたように思えてくる。キレてボート部をやめかけた事もあつたが、あの時踏みとどまつて本当に良かったと今しみじみ思う。今、ボート部をやめようかどうか迷つている人がいるなら、「迷う時間があればエルゴを引け」と、また、自分のクルーの中にやる気をなくしているメンバーがいるのであれば他の4人はどうにかしてそのクルーのままに続けていく方法を考えてほしい、といたい。ボートは団体競技である以上1人のメンバーチェンジがクルーそのものを変えてしまうほど重大なことであり、またそれほど自分が他の4人から必要とされている、ということそれぞれが強く認識してほしい。

ま、最後にオレが言いたいのは、みんなあまり深く考えずに楽しくやつて行つて欲しい、ということ。今は苦しくても、勝利の味を知つたらきつとやめられなくなるはず。バーベキューやスイカ割り、あるいはクルー合コンなど楽しいイベントいっぱいある。頑張つて新入生をたくさん入れて、オレが手に入れることのできなかつた西医体の金メダルを掴み取つてくれ。

いつまでも、仲良く、楽しく、練習がんばつてね。応援してます。



## 卒業しちゃった

6年 程野 茂樹

近いうち、長崎に帰ります。

## 卒業にあたって

6年 渋谷 正樹

誰も言い出さないのをよいことに首をすくめていたが、ついに先日編集担当のMくんより原稿の催促がきてしまった。3日で書くとその場を切り抜けたが、昨日がその3日目だった。最後の年くらいはまじめな話を書こうと思っていたが、柄でもないし時間の都合もあり大したことは書かないことにした。

そこで、ポート部に入って6年弱、リサーチセミナー以来1薬理に居住すること2年強、身をもって学び取ったことを今後のために書き残しておく。

ところで、今週は勉強時間よりもパソコンの前にいる時間が長いというところでもない週だった。

リサーチセミナーの鉄則

① 17:30頃からの1時間ほどは魔の時間である。最近の前倒しになっていくとの噂もあるが、この時間は1薬理医局には近づかない方がよい。(なお、土・日だと16:00前後である。)丹羽先生と目があつたら負け。

② 永山先生より早く学校に来てみよう。7:30に来れば勝てる。

③ マリアさんと喧嘩をしたかつたら日本語でまくし立てること。英語で喧嘩して勝てる心配は全くない。

④ コンピューターのことで分からなかつたら形成の浜田先生に聞いてもらいたい。きつとまだ沖繩なので、僕と同級生の山口君が独立専攻系の大学院生になっていくハズなので彼にコンタクトを取ると良い。なお、医局のMacのパスワードは.....なのですが、誰も変えきらないと思いますから、丹羽先生が時々騒ぎ出して「誰かパスワード変えた？」というのには単にキーボードのcaps lockが掛かっているだけ。

⑤ 毎年困っている薬理学実習の機械のマニュアルを作って永山先生に渡した。それでも分からなかつたら僕にコンタクトを取ってね。(マニュアル無くなっていたら僕のところには原稿が有り、多分。)

部活でトラブルが起きたときのマニュアル

①その場に居合わせた最上級生が状況を把握しキャプテンに連絡する。

②キャプテンは速やかに丹羽先生に連絡。遠征などの際に丹羽先生の学会出張と重なることもあるので、丹羽先生のスケジュールは事前に入手しておくこと。

③学部周辺での事故は井上病院、合宿所周辺での事故は琴海町立病院、遠賀での事故は北九州市立八幡病院がよい。関係者の先生がおられたりしてフレンドリーかも。丹羽先生から一言添えていただくとなお良い。

④さっさと処理してしまえ。

九山で予算を分捕るテクニク

①いかに具体例を挙げてふっかけるか。誰もボートにどのくらいお金がかかるか良く分かっていない。ただ、ボートだけ予算の桁が1桁違うから苦情が来るのである。評議会ではボート1艇がいくらかという話や、1人あたりの自己負担金が九山の競技種目の中でもっとも高いことなど懇切丁寧にお話ししよう。

②いかに実行委員を味方に付けるか。最初に出す1次予算書で間違いなく大幅なカットを求められる。あらかじめふっかけておいた

あたりはあつさりとしリム化しよう。逆に、譲れないところは絶対に譲らない。また、期限などは確実に守ること。ボートは九山の総合主幹とは別のサイクルで回っているので実行委員とは面識がないことが多い。こういったちよつとしたことの積み重ねで信頼関係を深めていく。

③評議委員に味方を潜ませる。評議委員は各大学2名。自分の思い通りになる人を評議委員にしてしまう。おそらくこの部もなりたがらないはずだから。特典として学友会のお金で3回ほど主幹校に遊びに行ける。

④かなり熊大にあげてしまったが、前回、前々回、さらにその前と3回分の資料が残っている。主幹が決まったら、早急に僕に連絡を。

1 薬理画像解析室新規入居者の募集

募集対象：第95回医師国家試験受験予定の方

募集人数：若干名（参考—本年度5名、昨年度6名）

募集条件：平成12年4月中に入居可能な方。

グループの場合最低1名のボート部員を含むこと。

雑用その他を引き受けてくれること。

物件詳細：日当たり良好（ただし西日）。冷暖房完備。事務机4台、長机2台あり。バス・トイレ共同。（シャワーあり）。

問い合わせは1葉理画像解析室渋谷まで。

それじゃあ、頑張つてね。おしまい。

# 無題

6年 土井 晋平

みんな頑張れ。

# 脳外

6年 松永 祥志

忙しい日々を過ごしています。

## 部員雑感

ノウズイは物を考えるとここにあらず

5年 及川 将弘

ボートを引退して早半年。

時たま昔の写真とか見返してみるんだけど、やっぱボートってかっこいいや。これほど見栄えのいい競技ってないんじゃないかな。漕いでる時はわかんなかったけど。

実際女の子達にも評判いいんじゃないか？（「ボート部」となる  
と疑問だが）

今年の勧誘頑張ろうな。

最後に昨シーズン共に漕いだBクルーメンバーへ

田浦…ちゃんと進級しろよ！

仁平…今年もいけるんじゃないか？対校喰つたれ！

末下…QOLのためにも、今年こそダイエツトだ！

近藤…御自愛ください。

## 雑感

4年 蓬萊 彰士

今年はいろんな経験をさせてもらった。4級の小型船舶の免許もとらせてもらった。一シーズン通してコックスもさせて頂いた。今思えばボート部のおかげでいろんな経験をさせてもらった。4tトラックも運転させてもらったし、整調で漕がせてもらったし、Aクルーの合宿にも参加して乗せてもらった。シングルスカルにも乗せてもらった。ボート部には感謝の気持ちでいっぱいだ！

あとはダブルスカルのるだけだ。よろしくおねがい…おーつと、ヤバイヤバイ。何をいつているんだ、俺は。危ない危ない…以上、ボート部に洗脳されつつある私でした。

## P・A・O・発令中

5年 森 創

前略

皆様、お元気で漕いで（バカやって）ますか？

どうやら2000年も無事で迎えることが出来ました（拍子抜けだったな）まだ実は20世紀。来るべき「新世紀」（〇ヴァぢゃないが）のために日々精進いたしましょう。

じゃ、近況報告でもいたしましょうか？

ええ、大変申し上げにくいことなんですが・・・体重が65kg  
になつてしましましてねえ・・・。(ちなみに24年間で瞬間最大  
体重(と書いて、“さいあくのデブじょうたい”と読む)は68kg  
。Aクルー時代かしらん部員には想像つかんだろう。)身長が  
161cmだから、BMI25.07(これが何を意味しているか  
わからない人、すぐに調べなさい!)いや、焦りましたよ本当に。

でもね、それだけならね、いいの。別にもおC O Xでないんだか  
ら・・・鏡見てて、何の気なしにふと下を向いたの。そしたら、

## @重顎!?

・・・人生で初めて、本当にびびつた。西医体の決勝より、受  
験より、弁論大会の時より、車で事故つた時より、留年しちゃつた  
ときより、消火器撒いて親父に「退学しろっ!」と言われたときよ  
りも(以下省略)。

と、言うわけで来るべき「新世紀」に向けてダイエツトしとるわ  
けですよ。マイ体重計も買ったしね。毎日「まっぱ」で測定して一  
覧表にしている(現役時代やったこともないよくなことまでやつと  
る)。目標はBMI22.2(57.03kg)。

Broccaの式になると(161-100)×0.9+54、9k

g

じゃ、皆様もくれぐれも健康に気をつけちゃってください。

草々

最後になつたけど表題は、Project Anti-Odevu  
のこと。

# RRROOAAARRR

5年 ウイ クアン ロン

「無頓着に、嘲弄的に、暴虐に、かく智慧は我らに求める。

智慧は女だ、智慧はただ戦士のみを愛する」

ニーチェ「ツアラトウストウラかく語りき」より。

引退してはや4ヶ月、早いものだ、未だに昨日入部したような錯  
覚に襲われる。自意識の欠落か、あるいはいち部員としての未熟さ  
故か、おそらく両方だろう。

しかし考えれば考えるほど、自分のような怠惰の権化が医学部行  
きながらポートをやると言った器用な真似ができたものだと思う。  
自慢じゃないが自分は日本語以外は全受験生中最低クラスの成績  
だったし、スポーツもポートを含め何をやってもダメだった。だか

ら自分は、「人間は皆平等である」とか「努力すれば報われる」といった言葉は信じないことにしている。

この世は不条理だ、バカでも地位も金もある家庭に生まれれば親の金とコネをフルに利用さえすれば大した苦勞もせず医者になれる。その反面、どんなに頭脳明晰で人徳のある人間でも生まれるところが悪ければ医者になるどころか、下手したら人生すら送れないかも知れない。そんな中で自分みたいならくでなしが何の不自由もなく中学、高校を出てそのまま親のすねかじって留学、大学ではろくに勉強せずに遊んでばかり。これを不条理と言わずに何という。

だからこそ自分は今幸せであることが実感できる。確かにポート部員としては成功できなかったかもしれない、西医体で優勝できなかったかもしれない、ポンペ賞も取れないかもしれない、学生生活をフルに満喫しているとは言えないかもしれない。でも自分は日本に行けたこと、長大医学部に入学できたこと、素晴らしい先輩、後輩たちと一緒にポートができたことについて喜びを感じているし、日本における良かったこと、悪かったこと全てに対し自分は幸福だと思うし、これからもこの“幸せ”な時をポート部のみんなと共に過ごしてゆきたいと思う。

P、S

今の日本、文句を言う奴が多すぎる。やれ政治家がどうの、やれ官僚がどうの、やれ経済がどうの、やれ治安がどうの、やれ雇用がどうの、やれファッションがどうの、やれグルメがどうの、やれセックスがどうの、エトセトラエトセトラ。その中で果たして、繁

華街にヤクの売人がいなくて、丁寧に掃除された公衆便所があって、役所で賄賂を払わなくて済んで、町中で大声で総理大臣の悪口言つても逮捕されずに済んで、さらには糖尿病のホームレスや中国共産党書記長よりも月収が多いフリーターがいるこの国に住んでることがどれだけ幸せな事か考えた事のある人がいるだろうか。

## 雑感

5年 松本周平

ポート部を引退してからというものの、すっかり家に引き籠りがちとなつた僕は、最近いつくら寝ても眠くて眠くてふとんから出ることができず、お日様のしたに出ると体がとけそうで、虫歯も痛かったりして、つまりとても病弱になりました。そのくせたまに酒を飲むと現役時代から進歩もなく朝まで外で寝てたり、大事なもの(例：財布や羞恥心など)をなくしたりしてこれでは身が持ちません。すっかり弱音をはいてしまいました。現役部員の皆さんは気にせず頑張りました。

## 雑感

5年 諸藤 陽一

「西医体順位決定戦」

これは漕ぎたくない。やめたほうがいい。いや、マジでー

みんな頑張つてね!

## 勧誘

4年 青山 英和

松本さんと共に勧誘を担当した。不祥事、年々増す新入生の体育会系離れなどのマイナス要因はあるものの、田中麗奈の主演映画・NHKの朝の連ドラによりボートの認知度が高く(実際は例年と変わらず)、「昨年の成功を今年も」と楽観視していたが、結局、私個人の力量不足、部の雰囲気と新入生のムードの相性など様々な要素で数多くの新人獲得にはいたらなかった。

我が部は、競技特性(肉体的限界に挑み、かつ個性を消しユニフォームを求め)・早朝練習などの点で華ある大学生活を夢見る新入生の理想とやや異なり、外部からの誤解を受けることもある。が、これは例年言えることで、新入生は部の雰囲気、つまりは構成する人間の個性、クラブへの充実感、多くの新人を求める熱意に惹かれる。

強烈な個性は求めて出てくるものではないが、充実感や熱意は

もつと前面に出すべきだ。これらは普段の活動に満足感を得ていなければ無理であるし、日常感じていることが裏付けとなる。とはいってもボートに対する取り組み方は、クルー単位で動く我が部では個人差が大きいし、あつて当然である。練習姿勢や情熱なんてのは個人でもシーズンごとに変化する。だから無理に全部語る必要はない。ただ自分がやって楽しいボート部のある一面だけ聞いてもらえばよく、それを強調すればいい。我々が興味のもてる集団であるとアピールすればいい。

勧誘には大きな経済的、時間的、精神的労力を要する。が、それだけにクラブを行うにあたりマン・パワーは非常に重要であり、今後の我が部の性格を決定付ける一大イベントである。熱意を持つて口説くか、あまりの朝の早さに辟易していようとも自分をもだます詐欺師となるか。個人それぞれの方法でやっていいが、もつと強引にいいというものが昨年の感想。他の部を批判するのはフェアではないが、「他をよく見てから決めていい。」と言える余裕はウチには到底ない。飲み会で困んで「ボート部ほど理想的な大学のクラブはない。」と新入生に錯覚(?)させて一気に落とすつもりでいい。勧誘は一人一殺の構えで臨んでほしい。

## 雑感

4年 西條 知見

後一年弱、色々迷惑をおかけしますが、その分良い成績を残せるよう頑張ります。

## 贈り物

4年 高木 理博

現在12月24日の午前6時。このクリスマス・イブの早朝に僕は精神科の勉強をしている。あと約8時間後には試験が始まってしまふのだが、思うように勉強がはかどらないなあ。いったい自分はどうほど理解しているのかテストしてみようっと!

というわけで、これから私のよく知る西〇君をモデルに彼を分析して将来彼がどのような精神疾患にかかるか、大きなお世話ではあるが考えてみよう。

まず彼は確か持病としてメニエール病を煩っているんだよなあ。メニエール病と言えばメニエール気質の人がかかりやすい病気でそれはいわゆる、神経質で几帳面な人を言うみたいだ。さらに彼は酒の席でも先輩に対して、あまり無礼なことをしたような記憶がないので礼儀正しいと言えるであろう。こういう性格の人はメラニコリー型親和性格といい、鬱病になりやすいみたいだ。しかし彼の場合は彼の部屋を見たことがある人ならわかると思うが、とても神経質で几帳面とは言えないんだよなあ。むしろ鬱病とはほど遠い性格だろう。ということはお躁病か? あるいは彼は、サンプルが一つしかないにも関わらず、一般化してしまう傾向があるなあ。そこにはまさに論理の飛躍があり、観念奔逸があると言えるんじゃないかなあ。さらに彼は「将来俺はフェラーリを買う」だの「ベンツを買う」だのあらゆる高級車を買いたいああさるといって誇大妄想を持つてる

し。その上、彼の食欲は異常であり、一度の食事で生協で千円以上使うこともあるそうだし、まさに食欲亢進。これらは躁病で見られるもので躁病になる可能性はかなり高いな。ていうか、もうすでに躁病なんじゃないのか?

そのほかにまだ記憶に新しいのは、彼が診断学のテストに落ちたときのこと。会う人、会う人にその話を繰り返していたつけ。そんなことを約一ヶ月も続けたんだよなあ、しつこい性格だなあ。粘着気質なんだろうな。これは、てんかんになりやすいようだ。

精神分裂病はどうだろう? なりやすいのは同胞が少ない場合は、年上の人。彼は2人兄弟の長男だったなあ、ストレスが多いとになりやすいのか。ストレスは多そうだしなあ。知能が高いとなりにくいのか。まあ、頭はいいのかな。社会経済状態が悪いのも良くないのか、これは大丈夫かな。でもフェラーリなんて買つてると危ないかなあ。冬期出生に多いんだ、そういえば1月か2月生なんだよな。うーん、危ない。でも結婚すれば大丈夫かもよ。

こうやってみると、本命が躁病で対校が分裂病、大穴が鬱病つてとこかな。でもまあ大丈夫なんじゃないかな、将来精神科にかかる人つて100人に1人ぐらいだつて言うし。ところでこんな事やつて、精神が受かるのかなあ。サンタさん、僕に合格をください。



## 雑感

4年 田辺 孝大

「道はどんなに厳しくとも

笑いながら歩こうぜ」

アントニオ猪木

新年の挨拶(1・4 in 東京ドーム)より

## 「わたしとみんなへ」

4年 渡辺 庸平

永遠に続くと思われたボート部での生活も残すところ1シーズンのみである。最近では幹部の仕事が忙しいなどと言いつつ何かとやり過ごしてしまいそんな気持ちに叱咤激励してオフシーズンの練習に取り組んでいる。

ボートをやるに当たり、多くのことを学んだと思うがやはりその大きな事の一つは「感情だけでは艇は進まない」ということか。他の様々な状況だけでも言えることであろう。その恩恵もあり最近はずっと気持ちよくコントリールして物事にあたる事が出来るようになったと感じる反面、何か新鮮味に欠けるような思いを抱くこともあり、まあ一つ大人になったということか。しかし、こんな感情が

ボート部の中にもあふれていたならそれはとても残念なことだ。下級生のみんなにはバカはバカらしく、利口なやつは利口らしくあつて欲しいと思う。どうも最近のボート部は早くから大人びてしまうと思えるのは僕だけだろうか。

とりあえず、最後まで燃え尽きたいものだ。みんなとわたしへ、この言葉を持ってシーズンを乗り切る糧としよう。

「この世から今すぐ去る者のごとく、全てのことを成し、言い、そして消えよ」

マルクス・アウレソウス

## 家庭教師

### 博之先生と真奈美ちゃん

二年 猪狩 啓介

今夜は家庭教師の博之先生が真奈美の部屋に来ています。お父さんとお母さんは遠い親戚のお通夜に行っていて、夜遅くまで帰ってきません。だから、家には真奈美以外誰もいません。真奈美は中学三年生。テニスをしていてすらっとした体型のショートカットのかわいい女の子。

「真奈美ちゃん、こんにちは。」

博之先生が来ました。先生は近所の大学に通う医大生で、眼鏡をかけていて外見はちよつとクールな感じのするおにいちゃん。でもとてもやさしい先生です。

「宿題はちゃんとできてるかな？」

「あー、忘れてたあ。」

真奈美ちゃんは舌を出して、頭をこつんとたたきました。

「だめだぞー、ちゃんとしないと。」

先生は怒ったりしません。ちよつと困った顔をした後、すぐに笑顔で喝を入れます。そんな先生のが真奈美は大好きです。

「じゃあ勉強を始めようか」

「はあい。」

真奈美は勉強道具を机に開きます。博之先生は横に座っていろいろ教えてくれます。

勉強時間も半分ぐらい過ぎたときでした。博之先生が聞いてきました。

「今日はお父さんとお母さんは？」

「親戚のお通夜に行つて、遅くまで帰つてこないの。」

「そつかあ。今日は真奈美ちゃんひとりなんだ。」

「うん。」

何気なくそんな言葉を交わして二人は国語の問題を解きます。

しばらくして先生がこう言ってきました。

「ねえ、真奈美ちゃん。いいこと教えてあげようか？」

博之先生が耳元でいきました。

「え？なあに？」

真奈美も興味津々です。そう言うと、博之先生はそれをゆつくりとズボンから出しました。

「わっ！先生のつておおきい…。」

真奈美はびつくりして声をあげてしまいました。

「大丈夫だよ。先生の仲間はみんなこれくらいの持つてるよ。」

「これをどうするの？博之先生。」

「今から教えてあげるよ。大事なことからちゃんと覚えてね。」

「うん。」

博之先生は真奈美に優しく声をかけると、

「握ってごらん。」

それを真奈美の前に突き出しました。彼女はおそろおそろそれを右で握りました。

「あつたかくて、かたい…。」

「堅さは人それぞれかな。やわらかいのもあるし、かたいのもあるよ。」

「ふうん。」

「じゃあ、ゆつくりとこすってごらん。前後に大きく。」

「う、うん…。」

真奈美はそれをゆつくりと前後に動かしました。でも、うまくできませんでした。

「うまくできないや…。」

「大丈夫。みんなはじめはうまくいかないもんだよ。」

真奈美はもう一度やってみました。今度は何とかうまくできたみたいです。

「そうだよ。上手だよ、真奈美ちゃん。」

「今度はそこにこすりつけてみようか。」

先生が真奈美の方を指しました。

「え？でもお…。」

「これを覚えてないと、将来苦労するよ。うまくできないとちよつと恥ずかしいから、ちゃんとしようね。」

「そ、そうなんだ…。」

真奈美は納得すると、頑張つて挑戦することにしました。その先端を自分のにつけて、けなげにゆつくりこすり始めました。

「もう少し強くこすらないとうまくいかないよ。」

真奈美は手に少し力を入れてこすりました。すると、先端からかすが出てきました。

「きたないよ、これ。」

こするのをやめて、博之先生にいいました。手が少し臭いのも気づきました。

「それに、変な臭いがするよお。」

「すぐなれるよ。もう少しだけ、続けてみようよ。」

いきません。

「小刻みにこすらなきゃダメだよ。」

言われたとおりに小刻みにこすってみることにしました。するとうまくいきました。

「うん、上手だよ。そう、ちゃんとできてるよ。」

先生はとても気分がいいようでした。先生が気分が良くなるのがとても嬉しくて、真奈美はもっとこするのを続けました。ごしごしごしごし…。

「すごいよ。ちゃんとできてるよ。真奈美ちゃんはえらいね。」

先生に褒められて真奈美は有頂天になりました。今度はローリングするようにこすってみました。するととってもうまくいって自分でもなんだか気持ちよくなってきました。かたいそれを自分のに一生懸命こすりつけました。ごしごしごしごし…。

ずっとこすっていると、真奈美のがだんだんさけそうになつてきました。

「あつ！さけそうだよ、先生！」

「最後まで続けて、真奈美ちゃん！」

真奈美は頑張つて続けました。でも、先端が引つかかつてうまく

博之先生は続けるように言いま。でも、いまにもさけそうです。ごしごしごしごしごしごしごしごしごしごしごしごしごしごしごし…。

「あつ…だめ…、さけちゃう！」

「手を止めちゃダメだよ！始めたことは最後までやらなきゃ！」

真奈美ちゃんは一生懸命こするのを続けました。小刻みに、時には大きく、ローリングも入れて…。ごしごしごしごし…。

「だ…だめ…、だめ…、だめだよ先生！さけちゃう…さけちゃうよお、あ、あつ、ああー！」

びりびりびり…。

「あーあ、さけちゃった。」

「しよがないなあ、真奈美ちゃんは…。」

「ノートがこんなになっちゃった。」

「ちゃんと消しゴムの使い方を教えてあげてるのに。大事なことから、次からはもっとうまくやるんだよ。」

「はーい。」

今日は消しゴムの上手な使い方を教えてくれました。真奈美はそんな博之先生のが大好きです。

おわり

## 雑感、99

3年 崎元 晋

寒さも厳しくなってきた、12月ももう終わろうとしている。雑感を書こうとして今年を振り返ると、どうしてもボートのことしか思い浮かばない。対校1年目で味わったものは敗北の苦さだけだった。

「Aクルーに乗って、頑張りさえすれば県漕はおろか、メダルまで手が届くかも」という自分の認識は何とも甘かったことだろう。数々のレース、特に西医体で部員の期待に応えられなかったあげく、長大ボート部の歴史に泥を塗ってしまう始末。なかでも負けてしまった自分が一番腹立たしく、情けなかった。救いようがなかった。

はつきり言ってこんな思いは二度としたくない、一度で十分。僕のテーブルの上の写真はいつもそれを思い出させてくれる。

来年こそは絶対負けたくない、全部勝つ、マジで勝つ。負けるのはもうたたくさんだ。

## 虐げられてゐるモノより

2年 田浦 康明

近藤と吉武へ

あまりボクをイヂめないでください。

末下へ

しつこい。

末下が12万のジャケットを購入したという話はあまりに有名である。人にはその人なりの金の使い方があるらしいが、僕の場合はコンポである。

オンキョーのインテック205シリーズ。アンプ、プレイヤー、グライコ、スピーカー、計14万。他にもバナナプラグとか、モニターケーブルとか・・・

あ、あとMDウォークマンも買ったついで。例えば、車内のステレオにこるのもいいが、やはり部屋で聞く音は格別である。低音のひびき、音割れのない高音、そしてすきとおるボーカル・・・また、単品コンポは拡張性が高い。わが家の24型ワイドテレビとスピーカーをつかえば、市内の映画館よりよほど臨場感あふれる映画が楽しめる。もちろんゲームをする時もしかり。友達がわが家を評するには、「こいつんちに住んだら勉強しなくなる」らしいが、留年したのはそのせいかな、それとも頭の悪さか・・・

# 99年度 Bクルー整調記

3年 山口仁平

今年のシーズンを振り返ってみると競技としてのボートをとても楽しめたシーズンとなりました。九山を除く全ての試合でいい結果を残せたので、僕は今年のクルーをとて誇りに思います。

九山では、エルゴ的にはオープンではずば抜けて良かったのに、準決勝で熊大と佐賀医に負けるといふ大失態を演じてしまいました。引退した及川さんに乗ってもらっているのに対して申し訳なく自分自身の悔しさもあつて、自信を無くしてしまいました。九山の後は整調は近藤にやつてもらおうとさえ思いました。

一度の敗北は、僕に重くのしかかってきました。その精神状態で、とにかくただ練習をし臨んだ九朝で準決勝進出というBクルーとしては久々の好成績を残せたことは、今シーズンでもとも励みになる出来事でした。今シーズンはライトパドルでAクルーと並べてあまり差がなく、たまに勝つたりするBクルーでした。しかし、直接試合で並べたことはありませんでした。

そして迎えた県漕。僕等Bクルーは全学BクルーTRITONと同じ組に入り、例年のTRITONなら絶対勝負になるし、勝ちには夢じゃないと思っていました。その試合前のストレッチのときそんな考えを話していた時のことです。Aクルーの某M先輩が「お前等

そんなこと言つて九山じゃ負けて恥さらしたじゃねーか。」という言葉が僕の耳に入りました。並べた練習全てを圧倒的な差で勝っているわけでもないのに、まして、九山や九朝で優勝したわけでもないのに、良くそこまで侮辱できたもんだと思います。実力主義から出た言葉でないとして練習量主義から出た言葉だとしても、それほどの侮辱を受けるほどの差があつたとは記憶してません。(注：今は全然気にしてないし、水に流してます。)まあとにかくその後の試合でTRITONに大差で負けたので、その時は何も言い返すことはしませんでした。Aクルーは弱小チーム相手に勝ち上がり、僕たちは2位同士の3艇レースを勝ち上がり、決勝はTRITON、Aクルー、Bクルー、園漕会という顔ぶれになりました。その日は3分30秒代は出せていたので、勝ちにはこだわらずに3分30秒を切ることを目標に試合に挑みました。「スタート！」の号令とともに漕ぎ出すと、なんとTRITONはよく分からなかったのですが、園漕会とAクルーには並んでいるではないですか。今シーズン最高のスタートでした。その後園漕会には離されましたが、Aクルーとは500mまで互角のままいき、最後には負けたものの3分26秒というタイムを出すことができました。船を陸に上げた後タイムを伝える放送が流れた時は最高の気分で、それをクルーと共に味わうボートの素晴らしさを改めて実感できた瞬間でした。

今シーズンのBクルーは例年より遥かに厳しい練習をこなしました。昨年は解剖を続けながら土日みっちり乗艇することの辛さを経験したので、2年生の近藤と末下のことは帰になっていました。彼等はシーズンを通じて何の不平不満を言わずついてきてくれました

た。一緒に乗ったのが彼等でなければ今シーズンのような結果はなかったと思っています。

及川さんや2年生やC.O.X田浦に刺激され、県漕後も西医体での勝利を目指して練習を行っていました。しかし、あろうことか僕自信の背中の怪我のため2週間程乗艇練習ができなくなってしまうました。その後、森さんのお父さんの紹介で三菱病院で治療してもらい何とか治すことができたことにはとても感謝しています。僕は、しびれを感じていた数カ月前に何も対策をしていなかったため、あの怪我による練習中断は今でもとても悔やまれます。僕は、ボートは耐えるスポーツですが、それと怪我の対策とは別の事だと思えます。自分がそうなっておいて言うのもなんですが、途中で止めるぐらいならエルゴも乗艇もやらない方がいいということです。そう言うことで一人がかっこつけても何の意味もありません。要は、とにかく中断せずにシーズンをとおして練習することが必要だと言うことです。根性がなくて練習しないのと、無理をして練習ができなくなるのは、練習ができないという面では同じなのです。

そして、怪我が治ってから合宿へと突入しました。毎日毎日出来る限りに練習をし、ピーク近くになると歩くのも辛く、限界を感じる事が多くありました。しかし、仕上がり事体はなかなかのものになりました。Aクルーと10本並べると2、3本は勝てる時がありました。合宿最後の日の前日に氏家コーチの目の前でAクルーに勝った時はとても気分爽快でした。

そして迎えた西医体、一次予選、二次予選と順調に勝ち上がり、

とうとう僕の待ち望んだ状況が訪れました。長大、熊大、宮医のAクルーと並べることにになりました。2位上がりでした。熊大のAクルーの漕手の一人は手を骨折していて、宮医は予選ではかなり早そうだったので熊大とウチのAクルーに勝てば決勝に行けると言う考えが頭の中をよぎりました。そのレースまでの時間はAクルーとも目を合わせませんでした。10本並べて2、3本しか勝てなくても、その2、3本をレースでやれる自信と、クルーに対する信頼がありました。

スタート台に付きました。1レーンは僕達Aクルー。隣から順に熊大、宮医、Aクルーが目に入りました。コンディションなんか気になりませんでした。ただ審判の声だけが耳に入り、前のレースからの女の審判の「よいい」から「ROW!」までの間が短いと言う忠告を冷静に思い出していただけでした。そしてスタート。気が付いた時は400mを過ぎたあたりでした。田浦の「いま、3位!」という声が耳に入りました。500mを越えたあたりで及川さんの「いけるぞ!」という声が耳に入りました。視線を少しずらしてみると明らかにAクルーの位置は僕らの位置より後ろにありました。まだスパートをかける余裕がありました。後は800mまで粘ってスパートをかけ、勝利を掴むだけでした。800mの手前まででAクルーが半艇身まで詰めていました。熊大は相変わらず僕達の半艇身前です。今まさにスパートを入れようとした瞬間、巨大な波がレーンの中に入ってきました。子々川で漕いでいる僕らにとっては漕げない波ではありませんでした。しかし、田浦の表情の変化はそれ以上の事が起こったことを告げていました。隣の熊大が僕らの方に寄ってきてチャンバラ寸前だったのです。僕は「舵をきれ!」と

叫びました。どうやってかわしたのかは分かりませんが。すれすれの近さのまま漕ぎ、そのままゴール。田浦の声はスパートを告げたのか、僕はスパートを入れることが出来たのか分かりません。しかし、Aクルーにキャンバス差で負けたことだけは分かりました。そこでシーズンは終わりました。その後の順位決定戦ではAクルーにも熊大のBクルーにも負けてしまいました。集中力が続かなかつたのでしよう。それが今年のAクルーとBクルーの差だったのだと思います。

今これを書いている12月になつても、この思いが色褪せることはありません。僕らはBクルーとしてやれるだけの事をし、やれるだけの結果を出しました。それが事実なのです。

夏を過ぎて、怪我に悩まされる日々が続いています。秋に入つて飲み会の場で、Aクルー以外の先輩が言いました「来年もおれのたてるメニューについてこれれば今年以上の結果が出るよ。ただし、ついてこれればね。」「冗談じゃない！」僕は心の中で思いましたが。その言葉は心の中で噛み殺しました。結局ボートは同じ艇に乗った人間としか思いを共有することなんてできないし、他の艇とは結果についてしか話せないからです。出していない結果に付いてゴチャゴチャ言つてやるのは言うのもカッコ悪いからです。

毎年毎年、昨年の自分を越える結果を出し続けることはとても難しいことです。しかし、来年更にいい結果を出すために頑張ろうと思つてます。

## 西医体に初出場して

2年 近藤 学

僕たち二年生（田浦さんはのぞく）は、今回の大阪での西医体が初めてだった。

まず驚いたのはボートというマイナー競技にも関わらず意外に参加者が多いこと、そしてその中で女つ気が全くないのは長大だけだったということだ。そして何よりもAクルーがあつさり負けてしまふレベルの高さには衝撃を受けた。

今年の西医体には僕自身がAクルーのメンバーとして（たぶん）望むことになるわけだが、良い結果を残せるよう、愚痴をこぼしながら練習に励んでいこうと思う。

## 「和佐野のこと」

2年 末下雅也

今年一年を振り返つてみて、キャラクター的に急成長を遂げたのはやはり和佐野善也（29歳独身）だと思う。

入学当時、同学年からは「和佐野さん」と呼ばれ、上級生からも一目置かれていた和佐野善也（29歳独身）は、今やただの「ワサー」である。名前から「さん」が消えたどころか「和佐野」の「野」



まで消えている。ワーサー、彼はもう10年に一人の、世界に手が届く逸材である。

考えてみると、俺と和佐野は対照的である。俺は若いのに老けているが、和佐野はもう老人だが若々しい。俺はたまに和佐野のことを「ガキだな」と思うことがあるが、ガキではなくジジイである。ジジイなのにあの赤ん坊のような笑顔の中にはキラリと光るものがあり、それが彼を若く見せているのだ。和佐野善也（29歳独身）の笑顔は冬は愛くるしいが夏は暑苦しい（しかし、「お前もな」と忍に言われてしまった）。

ところで、俺は和佐野を見て突然笑い出すことがあり、そのたび彼は「何で笑うんだよ」とちよつと怒った声で言う。俺は「思い出し笑いだ」と答えているが、俺は他人の顔を見ているときはそんな思い出し笑いは決してしない。

これだけ書いたんだから、この次の和佐野の文章が楽しみである。ガキだから（ジジイだけど）きつとボロクソに書かれるだろう。でも意外と俺のことは一言も書いてなかったりして。

P・S

この前ポート部の写真を生徒に見せたら青山さんと和佐野がイケてるそうだ。「女子高生キラリと和佐野」誕生か!?しかしこれは犯罪である。どうする!?和佐野!!

## スカラー

2年 豊田 啓介

今、スカルは二人しかいない。1年生が少ないこともあり不作である。しかし自分にとってはシエルフォアよりも楽しく思える。来シーズンはこの楽しみをわかってもらえる部員を増やしたい。そして冷たい海に落ちた後輩を眺めてやる。

## 雑感

2年 山道忍

ここ最近毎日バイトという日々が続いている。それもそのはず家庭教師を4つプラス、ガソリンスタンドにまで行っている。西医体が終わってからそれまで家庭教師一つだけだったのでガソリンスタンドにも行こうと思つて始めたのだ。しかし、10月に入つて高校の同級生の妹の家庭教師を、11月からは母親が取ってきた家庭教師を1つ、そしてなんと1月からはその妹の面倒までも見始めてしまった。さすがにそれだけバイトをやっていると1日2つは当たり前、多くて3つという日もある。

そこである週のスケジュールを…、

月曜 19:00～1:00 ガソリンスタンド

火曜 18:30～20:30 家庭教師 一科目  
21:00～23:00 " 二科目

水曜 18:00～20:30 家庭教師  
21:00～1:00 ガソリンスタンド

木曜 20:00～22:00 家庭教師

金曜 19:00～2:00 ガソリンスタンド

土曜 16:00～18:00 家庭教師(姉妹)  
18:00～20:30 "

日曜 21:00～2:00 ガソリンスタンド

日曜 18:00～1:00 ガソリンスタンド

という風に超ハードスケジュールなのである。しかもガソリンスタンドが終わるのが一時とか二時なので当然寝るのは四時過ぎ。従って午前中の授業にはあまり出られない。みんなにやりすぎだと言われるのでさすがにガソリンスタンドはやめたくなってきた。しかもそれだけ稼いだお金がどこに行ってるのか把握しきつてない。定期預金も作ったことだし着実にお金を貯めていこうと思いつつ夜中にジョイフルで勉強をする今日この頃です。

## 僕の尊敬する「あなた」

2年 吉武 記一

プロ野球において新人が入団する際、インタビューで「目標にしたり、尊敬している選手はいますか？」と聞かれるのをよく見かけます。特定の人物を挙げる選手もいれば、「目標とされるような選手になりたいです。」と抽象的なことを言う選手もいます。

僕の場合は、両者をひつくるめた感じとして、尊敬している人はたくさんいるのですが、その人たちに共通していることは、「あの人が、今ここにいたらなあ」と、つらい時などに頭に浮かんでくる人たちだということです。僕もそんな「あの人」に少しでも近づけるよう、頑張っていこうと思います。ここで、こんな詩でちょっと一息というのはいかがでしょうか。

くだいだいだけで

あなたがそこに  
その場の空気が  
ただいだけで  
明るくなる

あなたがそこに  
その場のみんなが  
ただいだけで  
ほつとする

そんなあなたに  
わたしもなりたい

# 最近思うこと

2年 和佐野 喜也

最近うれしかったこと

飛行機がなぜ空を飛ぶのかわかったような気がする。

最近悔しかったこと

教科書が入っていたかばんを盗られてしまった。

最近良かったこと

去年よりエルゴのタイムが伸びていた。

最近嫌なこと

いまだに2解剖の勉強をしている。

イブは試験で終わるだろう。

来年は、再試のない優雅な生活を送りたいものです。

# 雑感

1年 高田 潤

来期は軽量級でエルゴ大会に参加できるように減量に全力を尽くすつもりであります。

以上

# 98～99年長崎大学医学部漕艇部部費決算書

収入		備考
前年度繰り越し	103,445	
部費(12ヶ月分)	456,000	19人×2,000円
寄付	90,000	Dr. や御父兄より
その他	100,983	飲み会費用の残金等
合計	750,428	

支出		備考
ビデオ・カメラ	21,147	
土産	27,010	
レンタカー	37,903	浦上川への艇運搬時のトラック
モーターボート維持費	45,909	ガソリン・オイル等
卒業記念品等	58,540	
飲み会	88,090	
艇部品・修理費	136,628	リガーやボルト・ワッシャー等
ガソリン	256,976	子々川への移動用
その他	77,050	
次期繰越金	1,175	
合計	750,428	

# 【平成11年度長崎大学医学部漕艇部OB会収支報告】

(H11年度2月末現在)

収入		備考
前期繰越	933,641	
会費	2,040,000	
寄付	90,000	
預金利息	365	
合計	3,064,006	

支出		備考
新入生勧誘援助	200,000	
九山経費	143,000	エントリー費等
九朝経費	155,000	エントリー費、運搬費等
インカレ経費	336,691	エントリー費、運搬費等
西医体経費	865,800	宿泊費、エントリー費等
漕艇保険	140,200	
コピー料	240,000	二年分
県漕艇協会費	45,000	
部誌印刷費	193,200	
艇修理費	57,000	
漁網修理費	30,000	
お歳暮	11,497	
通信費	133,381	
雑費	7,441	
合計	2,558,210	

**【収入】**                      **【支出】**                      **【次期繰越金】**  
 3,064,006      -      2,558,210      =      505,796

# 長崎大学医学部漕艇部OB会会則

第一条 本会は長崎大学医学部漕艇部OB会と称する。

第二条 本会の事務所は、長崎大学医学部漕艇部に置く。

第三条 本会の目的は、漕艇部の円滑な運営の為に、精神的、物理的な援助を行い、あわせて部員の身体の錬成ならびに陶冶を図り、会員相互の親睦をはかるものである。

第四条 本会は、漕艇部のOBからなる一般会員ならびに本会の主旨に賛同する賛助会員をもって組織する。

第五条 本会に下記の役員を置く。

- (1) 会長 一名
- (2) 副会長 二名
- (3) 顧問 若干名
- (4) 総務 若干名
- (5) 会計監査 一名

第六条 会長、副会長、総務、会計監査はOB会において互選し、顧問は、会長が委嘱する。

第七条 役員任期は、一年とする。ただし、再選は妨げない。

第八条 漕艇部顧問教官は、OB会に出席し、部の事情を説明しなければならない。

第九条 総会は、年に一度これを開くものとする。

第十条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもって当てる。

第十一条 本会の会費は、一般会員より徴収し、会費は年度ごとに総会において決定する。

第十二条 本会の会計年度は、毎年四月一日より翌年三月三十一日に終わる。

第十三条 本会の予算、決算は、総会の承認を得なければならない。

第十四条 本会には下記の帳簿を備える。(1) 会則 (2) 会員名簿 (3) 会計簿

第十五条 会則の変更は、総会の承認を得なければならない。

付則 この会則は、昭和五十四年四月一日から施行する。  
(昭和五十五年三月二十二日改正)

【長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿】

役職	氏名	勤務先 自宅	勤務先電話番号 自宅電話番号
会長	村上 文也	850-0036 長崎市五島町3-3-202 852-8117 長崎市平野町1-25	095-826-7757 095-847-5132
顧問 前法医学教授	須山 弘文	850-0803 玉木女子短大；長崎市風頭1-33 852-8065 長崎市横尾二丁目4-5	095-822-8694 095-856-1321
顧問 前眼科学教授	高久 功	850-0963 長崎市ダイヤランド一丁目44-15	095-879-3699
顧問 前第2薬理教授	尾崎 正若	861-1102 熊本県菊池郡西合志町須屋2740-30	096-242-2761
顧問 県ボート協会会長	山口 光次	852-8145 長崎市昭和町二丁目5-14	095-844-5272
顧問 県ボート協会理事長	吉田 恒雄	850-0811 長崎市矢の平町2-19-26	095-825-4979
事務局担当	井上健一郎	850-0045 井上病院；長崎市宝町8-9 852-8102 長崎市坂本1-2-5	095-844-1281 095-846-2218
世話人	中桶 了太	852-8523 長崎大学医学部第1薬理学教室 852-8123 長崎市三原町12-2三原グリーンハイツ202号	095-849-7043 095-846-6999
世話人	岡 真一郎	852-8102 長崎大学医学部附属病院第2内科 長崎市上野町20-21サントスハイツ203	095-842-3714



## 【長崎大学医学部漕艇部賛助会員名簿】

氏名	勤務先	勤務先電話番号	役職
	自宅		備考
井上 満治	852-8052 長崎市岩屋町17-1	095-856-2711	開業 S19
岡本 英雄	855-0831 島原市湊道町二丁目7024	0957-62-2452	開業 S7
片伯部 貢	852-8132 長崎市扇町2-22	095-844-3043	開業 S7
佐藤 安雄	850-0901 長崎市本石灰町5-11	095-822-0321	開業 日大
鈴谷 悦堂	852-8033 長崎市緑が丘町1-4	095-846-2052	開業 S19
高木 聡一郎	850-0801 長崎市八幡町4-18	095-824-0590	開業 S20
石橋 盟士	852-8002 長崎市中園町22-17	095-846-5791	開業 S30
大須賀 浩	852-8002 長崎市井天町17-1	095-861-3576	開業 S30

# 【長崎大学医学部漕艇部役員名簿】(平成11年9月～平成12年8月)

役職	氏名	連絡先	連絡先電話番号
監督 (顧問教官)	丹羽正美	852-8523 長崎市坂本 1-12-4 長崎大学医学部第1薬理学教室	095-849-7041
コーチ	氏家祐二	851-2126 西彼杵郡長与町吉牟田郷 1163 番地 37 長崎ニュータウン 30-8	095-883-8875
主将	田辺孝大	長崎市三原町 1466 ヴィラ・デル・ノンノ平川 101	095-848-4449
副主将	崎元 晋	長崎市本尾町フォレストピラ 302	095-846-0290
主務	青山英和	長崎市岡町 Y's OKAMATI302	095-842-1358

氏名	勤務先 自宅	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address	医局 卒業年度
長西 靖	731-5127 長西耳鼻咽喉科医院：広島市佐伯区五日市駅町1-11-37 731-5127 広島市佐伯区五日市駅町1-4-5-811	082-923-8122 082-923-5839		S46
冬野 誠三	847-0844 なばたけ冬野クリニック：唐津市菜畑3660-1 847-0844 唐津市菜畑4208-57	0955-75-2220 0955-74-7378	fuyuno@matsuronet.co.jp	S48
本 恵一良	540-0006 秘本内科クリニック：堺市鳳西町1丁-92-2 592-0003 大阪府高石市東羽衣4-5-4	0722-62-5073 0722-64-8828	kema@violet.plala.or.jp	S49
峰 雅宣	854-0071 健保諫早総合病院：諫早市永昌東町24-1 852-8046 長崎市柳谷町4-13	0957-22-1380 095-847-6031		第1内科 S49
朝戸 末男	891-9112 朝戸病院：鹿児島県大島郡和泊町和泊14 891-9112 鹿児島県大島郡和泊町石川平14	0997-92-1131 0997-92-2280	sasato@nisiq.net	S50
内田 隆寿	平戸青州会病院 859-4826 長崎県北松浦郡田平町野田郷3-6コーポ野田3号	0950-57-2155		第2内科 S50
坂井 一枝	720-0822 みつふじ小児科内科医院：福山市川口町2-22-11 721-0952 広島県福山市曙町5丁目24-38	0849-53-0307 0849-54-4454		小児科 S50
瀬戸 信二	852-8102 長大附属病院第3内科：長崎市坂本1-7-1（留学中） 852-8052 長崎市岩屋町17-2	095-849-7288 095-857-1808		第3内科 S50
早田 篤	852-8022 長崎市立乳児院：長崎市富士見町6-22 852-8025 長崎市立岩町77-10	095-861-1418 095-862-5622		小児科 S50
田川 泰	852-8102 長崎大学医療短大：長崎市坂本1-7-1 851-2128 長崎県西彼杵郡長与町徳里郷98-12	095-849-4990 095-887-1391		第1外科 S50
富海 五郎	791-8022 松山記念病院：松山市美沢1-9-38 790-0903 松山市東野1丁目6-15	0899-25-3211 0899-77-1812		愛媛大精神科 S50
中野 文耕	853-2301 若松国民健康保険診療所：長崎県南松浦郡若松町若松郷281 853-2301 長崎県南松浦郡若松町若松郷281	0959-46-3315 0959-46-3318		第2外科 S50
丹羽 正美	852-8523 長崎大学医学部第1薬理学教室：長崎市坂本1-12-4 851-2127 長崎県西彼杵郡長与町高田郷1613-4	095-849-7041 095-883-6395	niwa@net.nagasaki-u.ac.jp	第1薬理 S50
高渡 一雄	850-0001 まわたり内科循環クリニック 850-0001 長崎市西山2丁目9-2	095-822-0101 095-822-0101		第3内科 S50
石川 治	670-0936 石川医院：姫路市古二階町135 670-0936 姫路市古二階町12	0972-23-3270 0972-23-1307		岡山大外科 S52
川口 昭男	850-0045 井上病院：長崎市宝町8-9 852-8046 長崎市柳谷町14-27	095-844-1281 095-847-5529		第1外科 S52
神田 源太	851-0502 塚崎病院皮膚科：長崎県西彼杵郡野母崎町以下宿2910 850-0003 長崎市片淵1丁目12-7	095-894-2131 095-822-7051		皮膚科 S52
田中 精一	192-0904 八王子消化器病院：八王子市市安町3-18-1 193-0811 八王子市上荻分町246-1	0426-26-5111 0426-51-7640	s-tanaka@xa2.so-net.ne.jp	女子医大消化器センター S52
堤 健二	834-0004 川崎病院：福岡県八女市納楚421-1 834-0024 福岡県八女市津江541-2ひまわりコーポ1-302	0943-23-3005 0943-24-5412		脳外科 S52
吉良 満夫	852-8008 浜崎外科病院：長崎市曙町3-6 852-8008 長崎市曙町3-6	095-861-6034 095-861-7431		第2外科 S54
出口 正巳	530-0012 白壁美容外科：大阪市北区芝田1-14-7 658-0003 兵庫県神戸市東灘区本山北町6-17-45-601	06-6372-2512 078-413-5008		形成外科 S54
井上 健一郎	850-0045 井上病院：長崎市宝町8-9 852-8102 長崎市坂本1-2-5	095-844-1281 095-846-2218		第2内科 S55
江口 圭介	857-0134 長崎労災病院：佐世保市瀬戸越2-12-5 857-0015 佐世保市松山町5-38	0956-49-2191		第3内科 S55
成松 元治	856-0835 国立長崎中央病院：大村市久原2-1001-1 852-8054 長崎市エミネント葉山町15-7	0957-52-3121		心臓血管外科 S55
水谷 明正	851-0301 長崎記念病院：長崎市深堀町1-11-54 850-0963 長崎市ダイヤランド1-36-19	095-871-1515 095-878-3807		第2外科 S55
小倉 猛	866-0826 熊本労災病院：熊本県八代市竹原町1670 862-0947 熊本市画図町重富744-13	0965-33-4151 096-379-7592	togura@lime.plada	形成外科 S56
谷川 宗生	852-8061 長崎北病院：長崎市滑石5-4-61 851-2127 西彼杵郡長与町高田郷1196-122	095-857-0001 095-883-4030		第3内科 S56
難波 裕幸	852-8523 長崎大学医学部原研細胞：長崎市坂本1-12-4 851-2127 長崎県西彼杵郡長与町高田郷858-103	095-849-7115 095-883-7541	namba@net.nagasaki-u.ac.jp	原研細胞 S56
前原 洋二	835-0024 森整形外科：福岡県山門郡瀬高町大字下庄590 830-0047 福岡県久留米市津福本町786-6グランピアマンション津福1001	0944-63-2040 0942-37-5038		S56

村山 晋	515-0004 済生会松阪総合病院内科：三重県松阪市朝日町1区15-6 514-0003 津市桜橋3-53-17津ロードリーマンション202	0598-51-2626 0592-24-0129		三重大第1内科 S56
山近 史郎	852-8102 長大附属病院第3内科：長崎市坂本1-7-1 850-0015 長崎市桜馬場2丁目1番1-1101	095-849-7288 095-825-3580	shiyama@aurora.dti.ne.jp	第3内科 S57
岡田 代吉	807-0843 おかだ外科胃腸クリニック：北九州市八幡西区三ヶ森4-9-24-605 807-0843 北九州市八幡西区三ヶ森4-9-24-202	093-613-7188 093-613-3732		S58
倉富 彰秀	842-0002 倉富眼科医院：佐賀県神埼郡神埼町大字道ヶ里2435-1	0952-52-8841		S58
末永 俊郎	801-0855 末永産婦人科麻酔科医院：北九州市門司区門司6-15	093-321-2453 093-322-1751	suotoshi@kk.ij4u.or.cp.jp	S58 第1外科
中崎 隆行	852-8104 長崎原爆病院：長崎市茂里町3-15 852-8102 長崎市坂本2-18-15	095-847-1511 095-842-2391		S58 第1外科
永見 耕一	758-0025 永見眼科医院：山口県萩市土原351	08382-2-0720		S58
永山 雄二	852-8523 長崎大学医学部第1薬理学教室：長崎市坂本1-12-4 851-2126 長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷579-40	095-849-7043 095-887-2796		第1薬理 S58
松永 伸彦	854-0072 まつなが眼科：諫早市永昌町43-1 854-0074 諫早市山川町12-14	0957-25-8866 0957-27-1333	nobuhiko.m@aol.com	S58 女子医大消化器センター
今里 雅之	192-0904 八王子消化器病院：八王子市子安町3-18-1 193-0932 八王子市緑町900-1	0426-26-5111 0426-27-3835		S59
小林 誠博	北九州市立八幡病院 805-0034 北九州市八幡東区清田2丁目16-21-503	093-662-6565 093-651-8786		S59
平野 友久	850-0953 上戸町病院：長崎市上戸町129 850-0963 長崎市ダイヤランド3-28-6	095-879-0705 095-878-8913		S59
糸柳 則昭	852-8102 長大附属病院第1外科：長崎市坂本1丁目7-1 852-8027 長崎市城山台1-9-11	095-849-7304 095-861-3747		第1外科 S60
日高 真	311-3122 石崎病院：茨城県東茨城郡茨城町上石崎4698 300-1245 茨城県稲敷郡笠崎町高崎692-5	029-293-7155 0298-73-3382	ccq65250@syd.odn.ne.jp	東北大精神科 S60
松岡 直樹	850-0832 後藤会病院：長崎市油屋町1-21 850-0037 長崎市金屋町9-9-1301	095-822-3151 095-846-2158	nmatuoka-nag@nagaaki.met.or.jp	第1内科 S60
矢次 登	800-0344 小波瀬病院：福岡県京都郡苅田町大字新津字池/下1598 803-0827 北九州市小倉北区緑ヶ丘3-4-18-2015	09-302-4-5211 093-591-7670		整形外科 S60
高須 勝也	愛宕病院 859-0401 長崎県西彼杵郡多良見町化屋名20-133	0957-43-2654		第2外科 S61
中里 貴浩	816-0864 福岡徳州会病院消化器内科：福岡県春日市須玖北4-5 811-2103 福岡県糟屋郡宇美町四王寺坂3丁目19-5	092-573-6622 092-934-3648		内科 S61
中山 大介	852-8102 長大附属病院産婦人科：長崎市坂本1丁目7-1 850-0048 長崎市上鏡座町12-2	095-849-7363 095-848-9401	nakayama@net2.nagasaki-u.ac.jp	産婦人科 S61
青木 幹弘	857-0056 佐世保市立総合病院：佐世保市平瀬町9-3 857-0018 佐世保市横尾町138	0956-24-1515 0956-22-7340		小児科 S62
石井 久敬	814-0133 福岡大学病院精神神経科：福岡市城南区七隈7-45-1 814-0001 福岡市早良区百道浜4-17-9	092-801-1011 092-821-7340		福岡大学精神神経科 S63
岡野 邦彦	852-8104 長崎原爆病院：長崎市茂里町3-15 852-8106 長崎市岩川町18-3宅島ビル301	095-847-1511 095-848-1474		整形外科 S63
朝長 道生	843-0301 国立嬉野病院：佐賀県藤津郡嬉野町大字下宿丙2436 843-0301 佐賀県藤津郡嬉野町大字下宿丙2436国立嬉野病院官舎2-22	0954-43-1120 0954-42-3326		第2内科 S63
中島 寅彦	7777 Greenbriar #3108 Houston, TX77030, U.S.A.		mietora@ibm.net	九大耳鼻科 S63
天野 秀明	852-8102 長大附属病院熱研内科：長崎市坂本1丁目7-1 852-8027 長崎市城山台2丁目30-3	095-849-7384 095-864-1101		熱研内科 H1
金色 正広	857-0134 長崎労災病院：佐世保市瀬戸越2-12-5	0956-49-2191	kanairo@mars.dti.ne.jp	麻酔科 H1
吉川 公正	804-0012 健和会中原病院：北九州市戸畑区中原東3丁目10-17 808-0016 北九州市若松区原町9-6	093-881-8181 093-751-6528	yusyusho@05.alphatec.or.jp	脳外科 H1
旭 隆宏	874-0011 国立別府病院：大分県別府市大字内かまど1473 874-0011 大分県別府市大字内かまど1473国立別府病院官舎R-6-5	0977-67-1111 0977-27-9555	asahit@beppu.hosp.co.jp	九大小児科 H2
白藤 智之	852-8125 聖フランシスコ病院：長崎市小峰町9-20 852-8135 長崎市千歳町9-20	095-846-1888 095-848-0191		第1外科 H2
寺尾 保信	113-0021 東京都立駒込病院：文京区本駒込3-18-22 108-0074 東京都港区高輪2丁目1-55-604	03-3823-2101 03-3443-5034		慈恵大形成外科 H2

中村 晋	813-0042 中村内科医院：福岡市東区舞松原1丁目6-18	092-681-7363		
	813-0036 福岡市東区若宮4丁目20-16エテルナヒルズ若宮501	092-662-4414		H 2
山本 太郎	6, Liemba Close P.O, Chispite, Harare, Zimbabwe		cajica@hikyaku.com	熱研社会環境 H 2
生田 安司	852-8102 長大附属病院第1外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7304		第一外科
	852-8022 長崎市富士見町10-25-302	095-861-9733	yikuta@clin.medic.mie-u.ac.jp	H 3
市川 辰樹	852-8501 長大附属病院第1内科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7200		第1内科
	852-8125 長崎市小峰町14-3-601	095-843-1470		H 3
鈴木 康弘	National Institute of Health Bidg.10, Rm5A11, 9000 Rockbille Pike, Bethesda, MD 20892, U.S.A.	301-496-9238		熊大第2内科 H 3
田中 邦彦	奈留病院 853-2201 南松浦郡奈留町浦郷1639-1医師宿舍2号	0959-64-2014 0959-64-4160		第2外科 H 3
山本 修	852-8102 長大附属病院第2外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7316		第2外科
	850-0015 長崎市桜馬場1-9-20	095-824-4600		H 3
劉 中誠	田川市立病院 825-0004 福岡県田川市桐ヶ丘6-2組医師住宅2号	0947-44-2100 0947-45-4956		第1外科 H 3
黒木 保	852-8102 長大附属病院第2外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7316		第2外科
	852-8027 長崎市城山台1-42-11-403	095-862-8052	koromoto@tt5.so-net.ac.jp	H 4
佐藤 俊一	399-8601 安曇総合病院：長野県北安曇郡池田町大字池田3207-1	0261-62-3166		信州大第3内科
	390-0861 松本市壱ヶ崎1-4-46メゾン壱ヶ崎102	0263-36-1468	shunnichi@eb.mbn.or.jp	H 4
趙 成三	852-8102 長大附属病院麻酔科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7370		麻酔科
	852-8065 長崎市横尾2-13-17シティパレス横尾303	095-856-3793		H 4
津田 純	130-0004 ウェルケア新吉田：墨田区本所4-20-3東京台貫ビル803	03-5608-1860		
	223-0056 横浜市港北区新吉田町6028-1	045-590-3855		H 4
中野 基	33 Pond Avenue, #201 Brookline, MA.02445-7136, U.S.A.	1-617-264-7999	mnakano@rascal.med.harvard.edu	形成外科 H 4
福井 雅士	870-0022 大分中村病院：大分市大手町3-2-43	097-536-5050		形成外科
	870-0022 大分市大手町3-2-37第5さつきマンション806	097-534-4799		H 4
南 恵樹	851-0301 長崎記念病院：長崎市深堀町1-11-54	095-871-1515		第2外科
	850-0951 長崎市国分町16-24	095-824-5123		H 4
竹下 浩明	980-0872 東北大学医学部分子病理学教室：仙台市青葉区星陵町2-1	022-717-8043		第1外科
	981-0933 仙台市青葉区柏木2-4-40-103	022-234-0448		H 5
近藤 新二	852-8523 長崎大学医学部原研遺伝：長崎市坂本1-12-4	095-849-7120		形成外科
	852-8035 長崎市油木町35-60ピーンヒルズホンダ302	095-847-5292		H 6
斎藤 将隆	852-8102 長大附属病院集中治療部：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7370		麻酔科
	851-2127 長崎県西彼杵郡長与町高田郷60-1-401	095-855-1496		H 6
阪上 学	565-0871 大阪大学微生物化学研究所：吹田市山田丘3-1	06-6879-8294		大阪大麻酔科
	662-0976 兵庫県西宮市宮西町14-13ファミリー508	0798-37-1475	sakaue@ff.ij4u.or.jp	H 6
松尾 敏明	650-0017 神戸大学医学部国際予防医学：神戸市中央区楠町7-5-1	078-382-5111		神戸大国際予防医学
	651-2103 神戸市西区学園西町7-1アクティ学園西町754号棟506号室	078-794-0910	oshiaki.Matsuo@ma5.seikyuu.ne.jp	H 6
岩井 敏郎	812-0054 九州大学附属病院心臓外科：福岡市東区馬出3丁目1-1	092-641-1151		九大心臓血管外科
	810-0054 福岡市中央区今川2丁目7-52-303	092-737-3773	tiwai@heart.med.kyusyu-u.ac.jp	H 7
宗 英吾	852-8003 共立病院：長崎市旭町26-18	095-862-0001		耳鼻科
	850-0003 長崎市片淵3-6-3	095-821-8868		H 7
中桶 了太	852-8523 長崎大学医学部細菌学：長崎市坂本1-12-4	095-849-7059		細菌学
	852-8123 長崎市三原町42-2三原グリーンハイツ202	095-846-6999	nakaoke-ngs@uminu-tokyo.ac.jp	H 7
藤本 武士	852-8102 長大附属病院第1内科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7262		第1内科
	852-8061 長崎市清石6-10-15	095-856-7819	d397022z@stcc.nagasaki-u.ac.jp	H 7
坂田 恵多良	550-0015 大野記念病院 550-0015 大阪市西区南堀江1-18-11-202	06-6531-1815 06-6531-3133	Kayo-ts@zp3.so-net.ne.jp	大阪大脳外科 H 7
古賀 洋安	877-1292 済生会日田病院 877-0071 大分県日田市玉川町75-1フレグランス玉川B-201	0973-24-1100 0973-22-5905	hirocco@mx6.tiki.ne.jp	久留米大小児科 H 8
城田 利彦	750-0041 下関市立中央病院：山口県下関市向洋町1-13-1	0832-31-4111		九大心臓血管外科
	750-0041 山口県下関市向洋町3-12-36			H 8
関 徹	981-0933 東北会病院：仙台市青葉区柏木1-8-7	022-234-0461		東北大精神科
	981-0933 仙台市青葉区柏木1-9-11-304	022-274-6311		H 8
武野 正義	857-0134 長崎労災病院：佐世保市瀬戸越2-12-5	0956-49-2191		第3内科
	857-0134 佐世保市瀬戸越2-13-23労災病院舎西5-6	0956-40-5882		H 8
福田 顕三	852-8102 長大附属病院第2外科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7316		第2外科
	852-8135 長崎市千歳町5-26-1304	095-842-1158		H 8

山里 昌司	859-3615 国立川棚病院	0956-82-3121		第3内科
	859-3615 長崎県東彼杵郡川棚町下組郷2005-1 院内官舎17-201	0956-82-2093		H 8
岡 真一郎	852-8113 長崎市上野町20-21サントスハイツ203	095-842-3714		第2内科
				H 9
岡田 和一郎	420-0853 静岡日赤病院：静岡市追手町8-2	054-254-4311		慶応大耳鼻科
	420-0043 静岡市川辺町2-3-15-1003	054-221-0810		H 9
羊田口 滋	九大附属病院麻酔科	092-713-3111		九大整形外科
	814-0121 福岡市城南区神松寺3-6-36-1403			H 9
大石 正雄	852-8501 長大附属病院形成外科：長崎市坂本1-7-1		moishi999@hotmail.com	形成外科
	長崎市本尾町23-23-3			H 1 0
古賀 聖士	859-040 長崎市立成人病センター：西彼杵郡多良見町化屋名986-2	095-861-1111		第2内科
				H 1 0
崎元 暢	173-0032 日大附属病院：板橋区大谷口上町30-1	03-3972-8111		日大眼科
	173-0036 板橋区向原1-21-22スカイフラッツボアヴェール302	03-3554-9103		H 1 0
山崎 励至	852-8102 長大附属病院原研内科：長崎市坂本1丁目7-1			原研内科
	851-2127 西彼杵郡長与町高田郷151-61	095-814-6446		H 1 0
高橋 優二	852-8102 長大附属病院耳鼻科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7349		耳鼻科
	852-8131 長崎市文教町12-3ライオンズマンション609	095-848-2841		H 1 1
谷川 治	815-0032 九州中央病院：福岡市南区塩原3-23-1	092-541-4936		九大第2外科
	815-0042 福岡市南区若久1-32-16-601			H 1 1
牧野 淳	成田赤十字病院	0476-22-2311		千葉大第2内科
	286-0041 千葉県成田市飯田町22-9エスカージ201	0476-23-1305		H 1 1
宮崎 浩充	長大附属病院耳鼻科：長崎市坂本1丁目7-1	095-849-7349		耳鼻科
	857-1151 佐世保市日宇町522-4医師公舎A-14	0956-34-1020	hiro-m@yg7.so-net.ne.jp	H 1 1
山本 経之	816-0864 福岡徳州会病院：福岡県春日市須玖北4-5	095-573-6622		形成外科
	816-0873 福岡県春日市日出町4-40-305			H 1 1
吉野 俊平	820-0018 福岡飯塚病院	0948-22-3800		飯塚病院
	820-0018 飯塚市芳雄町3-83飯塚病院研修医宿舎410号	0948-23-8590		H 1 1
澁谷 正樹	755-0067 山口大附属病院第2内科：山口県宇部市南小串1-1-1	0836-22-2501		山口大第2内科
	755-0035 山口県宇部市西琴芝2-736-5 A-II	0836-35-2248		H 1 2
土井 晋平	852-8113 長崎市上野町20-21サントスハイツ403	095-848-6219		H 1 2
福田 義文	700-0806 岡山市広瀬町13-16本郷様方			H 1 2
程野 茂樹	愛媛大学眼科			愛媛大眼科
	799-3111 愛媛県伊予市下吾川676-1	0899-83-3504		H 1 2
松永 祥志	北九州市立八幡総合病院	093-662-6565		脳外科
	805-0069 北九州市八幡東区前田1-11-4サンハイツ前田1405			H 1 2

## 長崎大医学部漕艇部部員名簿

学年	氏名	住所	第1電話番号	第2電話番号	出身校
6	及川 将弘	五島町10-4林田ビル403	832-4123	090-1167-8282	泰星
	森 創	橋口町14-17アムロハイツ301	844-3801	090-8399-3821	青雲学園
	ウイ・クアン・ロン	坂本2-10-28	849-5144		CANISIUS
	松本 周平	本原町9-22ユースハイツ101	849-2815		富士
	諸藤 陽一	本尾町16-13プロミネント本尾103	849-6149	090-9403-7317	巢鴨
5	蓬萊 彰士	平野町8-23パークサイド平野町202		090-1369-5720	修猷館
	青山 英和	岡町Y's OKAMATI302	842-1358	090-8228-4553	山口
	西條 知見	本原町39-17マルカ本原202	848-9751	090-2781-8910	徳島文理
	高木 理博	上野町7-17ATビル103	842-2944		小倉
	主将：田辺 孝大	三原町1466ヴィラ・デル・ノンノ平川101	848-4449	090-8626-5127	山口
	渡辺 庸平	江里町14-25ステイシー江里301	849-2875	090-1344-9602	磐城
4	崎元 晋	本尾町フォレストピラ302	846-0290	090-8916-2872	鹿児島修学館
3	猪狩 圭介	横尾2-2-5	857-2205	090-4342-5166	長崎北陽台
	田浦 康明	平和町9-2森川ビル402	847-7336	090-3736-0492	泰星
	山口 仁平	西彼杵郡時津町西時津1000-109	882-9002	090-8406-4592	長崎北陽台
	近藤 学	竹の久保町1-5	862-0032	090-1082-3543	明治学園
	豊田 啓介	平和町26-20三愛ビル3.202	843-3847	090-7150-6905	国東
	吉武 記一	坂本1-3-3ライムカンII 104	849-6617	090-9407-6316	防府
2	末下 雅也	平和町2-8-201	848-2990	090-9599-0007	青雲学園
	山道 忍	上浦町112	841-0756	090-4589-9626	長崎北
	和佐野 喜也	家野町5-9黒田アパート2F	843-0341		佐賀西
	高田 潤	小峰町14-17タウニー秀月202		090-8229-0599	高槻
1	荒木 孝太郎	虹ヶ丘町15-3		090-7152-2717	長崎北
	高嶺 朋三	上野町8-1ハイツ打越306		070-5486-4634	前橋
	夏田 孔史	橋口町2-6川道ビル201	842-1696	090-7169-3308	宮崎西
	袴田 晃央	葉山2-4-13南アパート201	856-9038	090-7602-2838	浜松西
	冬野 誠也	大橋21-3Y&Tビル303	847-6757	090-2514-6891	弘学館
	吉崎 歩	扇町11-6		090-7389-9736	明治学園

# 編集後記

まず最初にOBの山本太郎先生へ、パソコンの御寄贈をありがとうございました。おかげさまで今号における部誌製作がスムーズに進みました。

とはいえ、今春完成予定の本部誌の製作が大幅に遅れてしまったことに対しては、改めてお詫びを申し上げます。今回の製作の遅れに関しましては、製作者の怠慢と認識不足が主な原因ですが、その他にも平成7年度入部の部員が3名しかいなかったことと、3人が3人ともパソコンに関する知識を持ち合わせていなかったことが挙げられます。

今後部誌の製作にあたる後輩達へ。

- I、出来るだけ早く製作を始めよう
- II、作業は迅速かつ効率的に。
- III、原稿は締切りを誰一人例外なく守らせる。
- IV、可能な限り早く終わらせること、さもないとズルズルと先延ばしになって、終いには地獄を見る。

最後に、本誌の製作に協力して下さいました全体的の方々から感謝致します。

平成12年春

編集担当

ウイ クアンロン



# 祝 「漕魂」 22号発行

<b>大塚製薬株式会社</b> 長崎市油木町11-5 〒852-8035 ☎ 095-848-7044	<b>中外製薬株式会社</b> 長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル7F 〒850-0051 ☎ 095-825-4772
<b>科研製薬株式会社</b> 長崎市城山町18-9 城山ビル3F 〒852-8021 ☎ 095-861-3911	<b>富山化学工業株式会社</b> 長崎市五島町5-48 長崎船用品ビル3F 〒850-0036 ☎ 095-821-7269
<b>カネボウ薬品株式会社</b> 東京都港区海岸3-20-20 〒108-8080 ☎ 03-5446-3300	<b>旭化成工業株式会社</b> 長崎市千歳町6-33 千秀ビル 〒852-8135 ☎ 095-848-7601
<b>山之内製薬株式会社</b> 長崎市興善町6-5 東邦生命ビル4F 〒850-0032 ☎ 095-827-2893	<b>ノバルティス ファーマ株式会社</b> 長崎市中町1-26 住友生命中町ビル4F 〒850-0055 ☎ 095-827-3600
<b>杏林製薬株式会社</b> 長崎市賑町7-12 熊銀不動産ビル7F 〒850-0876 ☎ 095-820-3441	<b>萬有製薬株式会社</b> 長崎市興善町4-5 日本団体生命ビル6F 〒850-0032 ☎ 095-823-7141
<b>塩野義製薬株式会社</b> 長崎市五島町1-21 第百生命長崎ビル3F 〒850-0036 ☎ 095-826-2101	<b>ファイザー製薬株式会社</b> 長崎市中町1-26 住友生命中町ビル8F 〒850-0055 ☎ 095-827-2443
<b>第一製薬株式会社</b> 長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル2F 〒850-0051 ☎ 095-826-8050	<b>バイエル薬品株式会社</b> 長崎市宝町5-5 平田ビル6F 〒850-0045 ☎ 095-846-5009
<b>大鵬薬品工業株式会社</b> 長崎市油木町11-5 〒852-8035 ☎ 095-847-2243	<b>三菱東京製薬株式会社</b> 長崎市五島町5-48 長崎船用品ビル5F 〒850-0036 ☎ 095-823-6677
<b>田辺製薬株式会社</b> 長崎市西坂町2-3 長崎駅前第一生命ビル3F 〒850-0051 ☎ 095-824-3843	

他、多数のメーカー様の協賛  
有難うございました

名簿の内容を以下のように訂正します。

氏名 \_\_\_\_\_ 年卒 \_\_\_\_\_

現住所 \_\_\_\_\_

勤務先 \_\_\_\_\_

～通信欄～

【お願い】

毎回、住所録の不備についての苦情を耳に致します。私どもといたしましてもできる限りの努力をしておりますが、特に若いドクターを中心として異動の多い季節に発行するという时期的な問題もあり必ずしも完璧を期し難いのが現状です。

つきましては、氏名・住所・電話番号・勤務先等に変更または誤りがございましたら、上記のハガキにて長崎大学医学部漕艇部まで御通知下さい。

また、通信欄には、ボート部に対する要望や、「漕魂」に対する感想など書いて頂ければ幸いです。